

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第129集

あい じー ごう かま あと
I - G - 2 号 窯跡

2005

財団法人愛知県教育サービスセンター
愛知県埋蔵文化財センター



調査区全景（東より）



出土遺物

序

愛知県愛知郡長久手町は名古屋市の東に位置し、歴史的には小牧・長久手の戦いの舞台として古くから知られております。近年は名古屋近郊の住宅地として、あるいは大学や研究機関が立ち並び、文字通り発展しつつある地域です。また平成17年には愛知青少年公園の敷地内で日本国際博覧会「愛・地球博」が開催され、脚光を浴びております。

I-G-2号窯が所在する三ヶ峯丘陵一帯には古代から中世にかけて操業した古窯跡がいくつか残り、かつて窯業生産が盛んであったことが知られるようになってきました。このたび愛知県建設部は愛知青少年公園再整備の一環として、園路及び広場等の整備を計画いたしました。整備予定地の一角に古窯跡の存在が確認されたため、愛知県教育委員会を通じて委託を受けた財団法人愛知県教育サービスセンター・愛知県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施いたしました。調査の結果3基の古窯の存在が確認され、この地域における窯業生産のあり方について貴重な知見を得ることができました。本書はこの調査結果をまとめたもので、中世窯業や地域史研究の一助になれば幸いです。

文末ではありますが、調査にあたり関係各機関には格段の御協力をいただきました。厚くお礼申し上げます。

平成17年3月

財団法人 愛知県教育サービスセンター
愛知県埋蔵文化財センター

理事長 古池 庸男

例　　言

1. 本書は、愛知県愛知郡長久手町大字岩作字三ヶ峯に所在する、I-G-2号窯跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は公園緑地整備事業に伴う事前調査として、愛知県建設部より愛知県教育委員会を通じて委託を受けた、愛知県教育サービスセンター・愛知県埋蔵文化財センターが実施した。
3. 調査期間は平成15年4月より7月にかけてを行い、整理作業には平成16年8月から入った。調査面積は350 m²である。
4. 調査担当者は藤岡幹根（主査、現小牧市立一色小学校教諭）、酒井俊彦（主査）、鶴飼雅弘（調査研究員）である。また調査補助員として、中島京の協力を得た。
5. 調査にあたっては、次の諸機関の御指導・御協力を得た。
　　愛知県教育委員会文化財保護室、愛知県埋蔵文化財調査センター、愛知県建設部、長久手町教育委員会
6. 本書の編集・執筆は鶴飼が行った。
7. 遺物の整理・製図等には下記の方々の協力を得た。
　　調査研究補助員：平野昌子、神谷巳佳、水野多栄
　　整理補助員：福田春美、鈴木小百合、佐藤美弥子、新留禎博
　　・遺跡の空中写真撮影、遺構の写真測量および基本平面図の作成については、株式会社イビソクに委託した。
　　・熱残留磁気測定資料の採取・報告を株式会社パレオ・ラボ（担当：藤根久氏）に委託した。
　　・遺物の実測図トレースは、株式会社ウェルオンに委託した。
　　・遺物の写真撮影に関しては、有限会社写真工房　遊（担当：金子知久氏）に委託した。
8. 報告書の作成に当たっては、次の諸機関・諸氏の御教示・御協力を得た。
　　長久手町教育委員会　愛知県立芸術大学芸術資料館、伊藤隆、神谷麻理子、高崎祥一郎
　　赤羽一郎、藤澤良祐、柏崎彰一、岡本直久、磯谷和明、青木修、河合君近、金子健一
9. 調査区の座標は、国土交通省告示の平面直角座標第VII系（世界測地系）に準拠した。なお、海拔標高はT.P.（東京湾平均海面高度）による。
10. 本書で使用する色調は、小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』に依拠した。
11. 本書で使用する遺構記号は、窯体：SY、溝：SD、土坑：SKである。
12. 発掘調査に関する実測図・写真については、愛知県埋蔵文化財センターが保管している。
13. 出土遺物については、愛知県埋蔵文化財調査センターが保管している。



目次

第1章 遺跡の立地と調査経過	1
1 調査の経緯	1
2 遺跡の立地と環境	2
3 調査の経過	5
第2章 遺構	6
1 概要	6
2 窯体	7
3 前庭部整地層・灰層	14
第3章 遺物	21
1 概要	21
2 形態分類	21
3 遺構別出土状況	24
4 陶丸・窯道具・その他の遺物	25
第4章 科学分析	27
1 考古地磁気測定	27
第5章 考察とまとめ	31
1 I-G-2号窯における窯業生産の特徴	31
2 狼投窯におけるI-G-2号窯の位置づけ	34
3 まとめ	35
参考文献	36
付表	37
遺構平面図	38
遺物観察表	39
遺構一覧表	45

挿図目次

図 1	長久手町位置図	1
図 2	遺跡周辺の地質図	2
図 3	周辺の主な遺跡	4
図 4	調査区位置図	6
図 5	SY01 窯体実測図	8
図 6	SY02 窯体実測図	11
図 7	SY03 窯体実測図	13
図 8	調査区北壁・東壁埋土セクション図	15
図 9	県試掘トレンチ埋土セクション図	19
図 10	A類底部内面	21
図 11	山茶挽・小皿の形態分類	23
図 12	考古地磁気水年変化曲線	30

表目次

表 1	調査工程表	5
表 2	SY01 窯体断面観察表	7
表 3	SY01 燃焼室埋土観察表	7
表 4	SY02 燃焼室埋土観察表	9
表 5	SY02 窯体断面観察表	10
表 6	SY03 窯体断面観察表	12
表 7	調査区北壁・東壁土層観察表	16
表 8	県試掘トレンチ土層観察表	20
表 9	遺構別出土遺物形態分類表	24
表 10	残留磁化測定結果	29
表 11	窯跡焼土の焼成年代推定値	30
表 12	形態別計測平均値	32
表 13	山茶挽形態別法量分布表	33

図版目次

図版 1	SY01 出土遺物 1	46
図版 2	SY01 出土遺物 2	47
図版 3	SY02 出土遺物 1	48
図版 4	SY02 出土遺物 2	49
図版 5	SY02 出土遺物 3	50
図版 6	SY02 出土遺物 4	51
図版 7	SY03 出土遺物 1	52
図版 8	SY03 出土遺物 2	53
図版 9	SK01 出土遺物	54
図版 10	北壁・東壁採集遺物 1	55
図版 11	北壁・東壁採集遺物 2	56
図版 12	北壁・東壁採集遺物 3	57
図版 13	北壁・東壁採集遺物 4	58
図版 14	軸着遺物	59
図版 15	窯道具・その他の遺物	60

写真目次

写真図版 1	SY01 遺構	61
写真図版 2	SY02 遺構	62
写真図版 3	SY03・SK01 遺構	63
写真図版 4	SY01 出土遺物	64
写真図版 5	SY02 出土遺物	65
写真図版 6	SY03・SK01 出土遺物	66
写真図版 7	壁・窯道具・その他	67



Chapter 1

遺跡の立地と調査経過

1 調査の経緯

長久手町は尾張丘陵のほぼ中央に位置する愛知郡の北端にあり、東は豊田市、西は名古屋市、南は日進市、北は瀬戸市、尾張旭市と隣接する。古くから「小牧・長久手の戦い」の主戦場として知られたが、近年名古屋市近郊の住宅地として開発が進み、急速な変貌を遂げつつある。町は尾張丘陵と尾張平野が接する位置に当たり、丘陵と平地が複雑に入り組んだ、南東に高く北西に低い地形である。

I-G-2号窯跡（県登録番号 15033）は愛知県愛知郡長久手町大字岩作字三ヶ峯地内、愛知青少年公園内に所在する。同窯は、愛知県教育委員会が昭和 52（1977）年から実施した猿投山西麓古窯跡分布調査により発見され、登録されている。

愛知県建設部公園緑地課は平成 13（2001）年、愛知青少年公園再整備の一環として園路および広場等の整備を計画した。同課は愛知県教育委員会に埋蔵文化財の所在の有無およびその取り扱いについて照会したところ、周知の埋蔵文化財包蔵地としての I-G-2 号窯および中世陶器片の散布が確認された。平成 14（2002）年 1 月、愛知県教育委員会は 2ヶ所に試掘トレッチを入れたところ、窯体および灰層の一部を確認した。これによって発掘調査の必要が生じたため、愛知県教育委員会から委託を受けた（財）愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センターが調査に入ることになった。



図 1 長久手町位置図

2 遺跡の立地と環境

(1) 自然環境

地質

長久手町の地質について概観すると、基盤岩は青少年公園地内に花崗岩の露頭、色金山・高根山付近にホルンフェルスの岩体が露頭している以外に観察されず。大部分は鮮新統・更新統の地層で覆われている。鮮新統は瀬戸陶土層・矢田川累層に大別されるが、瀬戸陶土層は地表面で観察できない。矢田川累層はさらに水野砂礫層・尾張夾炭層・猪高層に細分され、水野砂礫層はおもに町東部の丘陵に、尾張夾炭層・猪高層は町西部の丘陵を中心に分布する（図2）。地形的には、丘陵とその谷に形成された沖積層が分布する。丘陵は町域南東の三ヶ峯丘陵に端を発し、北に大草・前熊丘陵、北西に岩作丘陵が連なり、西部には中央丘陵と長瀬丘陵が分布する。

三ヶ峯丘陵

遺跡の位置する三ヶ峯丘陵は町の標高100mから180mを誇る町域最大の丘陵であり、最高点は標高約184mを数える。また西では尾張・三河両国の境をなし、北は大草丘陵を経て瀬戸市幡山丘陵へと続く。大部分が水野砂礫層に属し、一部に尾張夾炭層が分布する。また丘陵に形成された谷のひとつに源を発する香流川は、緩やかなS字を描きながら町の南東から北西へ流れ、名古屋市内で矢田川と合流する。

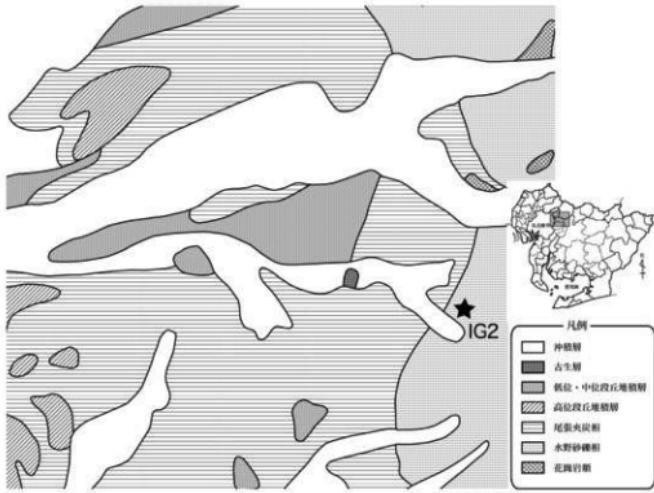


図2 遺跡周辺の地質図 (1 : 100000)

(2) 歴史的環境

長久手町域における旧石器時代から弥生時代にかけての遺跡は、現在のところごくわずかに確認されるに留まる。長久手町が昭和55(1980)年に行った遺跡分布調査によれば、内万場遺跡で旧石器時代の剥片石器、権道寺北遺跡で繩文後期の深鉢の胸部、宮脇遺跡で弥生後期の壺形土器の胸部などが採集されているが、遺構を確認するまでには至っていない。また古墳時代中期までの様相も不明な部分が多く、今後の解明が待たれる。

古墳時代後期になり、ようやくこの地域でも古墳の築造が確認できる。町内の群集墳は高根山古墳群・熊張古墳群・南部古墳群の3群に大別され、うち熊張古墳群は助六古墳群・神明社古墳群の2グループからなる。このうち助六一号墳は胴張り型横穴式石室をもち、石室からは高杯・平瓶などの須恵器、直刀や刀子などの鉄製品などとともに銀環・金環が出土しており、出土状況から2ないし3世代、5体の被葬者が想定されている。また神明社二号墳の横穴式石室からも細頭瓶・台付鉢などの須恵器が出土しており、須恵器の年代観から古墳群の形成は7世紀初頭と考えられている。また遺物散布地として古墳群周辺にくたらげ遺跡・杣ヶ根遺跡があり、いずれも7世紀代の須恵器片が採集されていることから、集落の存在が推定されている。

5世紀に東山窯(現名古屋市千種区・昭和区付近)で始まった須恵器生産は、奈良時代には周辺の丘陵一帯に広がり、猿投窯と呼ばれる一大窯業生産地へと成長した。町域はこのうち岩崎地区に属し、7世紀には西部の長湫丘陵を中心に丁子田古窯や、市ヶ洞古窯などが操業した。特に市ヶ洞古窯は7世紀末に操業し、「^{井上}五十戸」の刻書がある甕片の出土で知られる。8世紀後半には窯の分布が中央丘陵・岩作丘陵・三ヶ峯丘陵一帯に広がり、山越2号窯や三ヶ峯3号窯はこの時期の操業と考えられている。なおこの時期における町内の遺跡としては、奈良時代末期から平安時代初期にかけての土坑が確認された岩作城跡がある。

9世紀にはいると須恵器は灰釉陶器の生産へと転化し、日進市株山丘陵・岩藤丘陵を中心で生産が盛んとなった。9世紀後半から10世紀前半にかけて操業した山越1号窯では、大小三種類の灰釉碗や二種類の皿・段皿・手付瓶を生産したが、このうち灰釉碗には「羹坏」「大草當不口」銘を持つものがあり、注目されている。9世紀後半、窯の分布は周辺へ拡散する傾向を示し、数も減少する。山越1号窯にほど近い日進市金井^{かねい}遺跡では、ロクロビットを含む工房跡や土器集積遺構が確認されている(池本、2004)。

平安時代末、灰釉陶器は施釉を省いた山茶碗に移行した。猿投窯では東山地区を中心に、山茶碗のほか花瓶・経筒外容器・四耳壺・三耳壺・瓦などが焼成され、京都や尾張国内の寺院などに供給されていたが、町内でこの時期の操業を確認することはできない。12世紀施釉陶器生産が瀬戸を中心に始まると、猿投窯では特殊品生産が衰退し、山茶碗専焼窯に移行した。13世紀前半には日進市岩崎地区をはじめ、三好町黒笛地区・名古屋市鳴海地区を中心に窯数はピークに達し(斎藤、1988)、町域でも三ヶ峯丘陵を中心に窯業生産が盛んになったことが明らかになりつつある。一方大草丘陵の次ヶ廻間古窯では、山茶碗のほかに片口鉢・入子・瓦・四耳壺・陶器・蓋などが焼成されており、近隣の瀬戸市幡山・南山口地区との関連性が指摘されている。猿投窯における山茶碗生産は13世紀後半には衰退し、三ヶ峯丘陵でもほぼ同じ時期に終末を迎える。

周辺の古墳群

須恵器生産

灰釉陶器

山茶碗



図3 周辺の主な遺跡 (1:25000)

中世の長久手町域については史料的制約が大きく、山田郡に属すること以外に文献からわることは極めて少ない。ただしこの地域が尾張・三河両国の境に位置したことは、戦国期における岩作城・長久手城など城館の成立につながり、ひいては天正12(1584)年に羽柴秀吉・徳川家康が争った小牧・長久手の戦いの主戦場となるのである。慶長12(1607)年、徳川義直を初代藩主とする尾張藩が成立する。町域は北熊村・長久手村・岩作村・大草村・前熊村の5ヶ村に分かれ、水野代官所の支配下に置かれた。三ヶ峯丘陵一帯は岩作村に属し松山となっていたが、尾張藩は明和年間以降、土砂の田畠への流入を防ぐため松林を雜木林に変えていく方針を探ったといわれる。明治にはいると村の合併が進み、明治39年5月には上郷(旧北熊・前熊・大草の3ヶ村)・岩作・長湫の三村が合併して長久手村が誕生した。第二次大戦後三ヶ峯丘陵では開拓が進む一方、多くの県有林を利用して愛知県総合農業試験場、愛知県立芸術大学などが開設された。また昭和45(1970)年11月には調査区を含む一帯に愛知青少年公園が開園し、多くの利用者で賑わっている。

中世以後の長久手

愛知青少年公園

3 調査の経過

調査区には調査前の時点では園路に伴う休憩施設が構築されており、遺構の残存状況は不明であった。平成15年3月20日調査に先立つて構造物の撤去に立会い、県試掘トレーニングの位置と窓体1基の位置を確認した。この際、窓体1基の遺存を新たに確認した。

4月7日、環境に対する配慮事項について説明を受けたうえで、4月10日からトレチ掘削作業を開始し、窓基1基の遺存を新たに確認した。調査は4月下旬に雨天が続いたため中止が続き、作業が本格化したのは5月に入ってからとなった。調査区東に設置したトレチから遺物が多数出土したため、県試掘トレチを東西に延長するとともに、調査区北端および南北方向にトレチを新たに設けた。トレチ掘削は5月9日に完了し、12日から重機を投入して、盛土と認識した部分を掘り下げた。

窓体の検出後埋土の掘削を行い、6月4日に空撮および個別遺構の写真撮影を行った。SY01・SY03については窓体構造を確認するために6月5日から床面の断ち割りにはいり、SY02については遺物・焼台の取上げを行った後に床面の断ち割りに入った。この間、盛土と認識した埋土が窓操業時の灰層・整地層であることが判明したため、北壁・東壁について土層断面図を測囲し、遺物を層位ごとに取り上げた。6月20日に熱残留磁気測定のための資料採取を行い、23日にはSY02の断ち割り・写真撮影を完了し、27日かけて測量を行った。埋め戻しは7月3日から始め7月7日に完了し、調査を終了した。

表 1 調查工程表



調査前の状況（南東より）

Chapter 2

遺構

1 概要

遺跡の立地

窯跡は三ヶ峯丘陵にいくつも伸びる支丘の一つに位置し、調査区の周辺には、公園利用者が気軽に散策できるよう園路が整備されている。調査は休憩施設の基礎を残した状態で開始した。

遺構検出の結果調査区内に3基の窯体を検出し、うち1基については前庭部に当たる位置に土坑1基と、排水を目的に構築されたと考えられる溝1条を確認した。ただし3基とも園路整備に伴う造成のために削平を受けており、遺構は燃焼室・分焰柱および焼成室の一部の検出に留まった。また壁面の土層を検討した結果、窯構築時の排土等を利用して前庭部を構築した可能性のあることが明らかとなつた。したがつて残る2基の前庭部に関しては、遺構を確認することができなかつた。

窯体は3基とも窯窓である。窯窓は東海地方の瓷器系中世窯に通有な、分焰柱を持つ窓であり、猿投山麓の南西部を中心に、北は犬山市から南は知多半島にかけての丘陵地帯に広く分布する。窯体は北側に展開する谷に向かって開口し、灰原は谷の傾斜を埋めるように形成されていると考えられる。

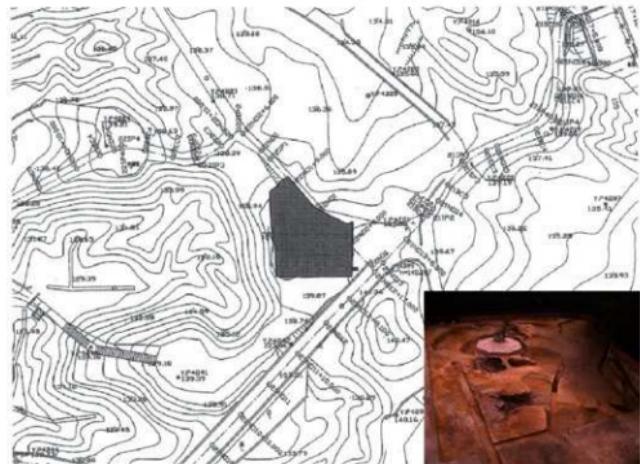


図4 調査区位置図 (1 : 1000)

2 窯体

(1) SY01

焚口から焼成室の一部まで約4.05mが残存した。窯体は調査区外へ広がっていたと考えられるが、調査区の西側は急峻な崖であり、復元是不可能である。焚口の標高は139mである。中軸線はN-62°W、傾斜は焚口から分焰柱まで1°、焼成室の平均斜度は約19°である。燃焼室は焚口から分焰柱の中心まで長さ1.85m、焚口付近の幅0.9m、燃焼室の中間からはゆるやかに広がり、分焰柱付近で約1.6mを数える。分焰柱は床面から高さ0.33mまでが残り、直径0.65mの円形の形状を持つ。断ち割りの結果、分焰柱は地山をくりぬいた状態で構築されており、周囲に粘土を貼り付けて補強している。焼成室は残存長2.2m、床面は分焰柱から1.25mまでが残存する。

窯体の規模

分焰柱

表2 SY01 窯体断面観察表

番号	マンセル値	土色	備考
1	5Y8/1	灰白色	還元層
2	2.5Y8/1	灰白色	分焰柱構築粘土
3	10YR7/8	黄橙色	分焰柱構築粘土
4	10R6/8	赤橙色	分焰柱構築土、地山
5	2.5YR6/8	橙色	分焰柱構築土、地山
6	10R5/8	赤色	分焰柱構築土、地山
7	10YR7/8	黄橙色	充填土
8	2.5Y7/1	灰白色	炭化物を含む、充填土
9	10Y2/1	黒色	粘土、炭化物を多量に含む
10	10YR6/6	明黄褐色	シルト、2.5Y8/1(灰白色)細粒砂、10YR7/2(にぶい黄橙色)粘土が斑入
11	10YR7/6	明黄褐色	シルト、焼土が混じる
12	10YR7/6	明黄褐色	細粒砂
13	10YR7/6	明黄褐色	細粒砂、焼土、炭化物を含む
14	10R5/8	赤色	酸化層
15	10R5/8	赤色	中粒砂、酸化層
16	10YR6/4	にぶい黄橙色	粘土、2.5Y7/2(灰黄色)細粒砂が斑入、充填土
17	10YR8/6	黄橙色	酸化層

表3 SY01 燃焼室埋土観察表

番号	マンセル値	土色	備考
ア	10YR6/4	にぶい黄橙色	細粒砂、焼土をブロック状に含む
イ	2.5Y6/4	にぶい黄色	中粒砂、天井部焼土と互層状に混じる
ウ	10YR6/4	にぶい黄橙色	細粒砂、10YR7/8(黄橙色)細粒砂、10YR5/4(にぶい黄褐色)シルトとの斑土、焼土混じる
エ	2.5Y6/4	にぶい黄色	粘土、10YR3/1(黒褐色)シルトの斑土

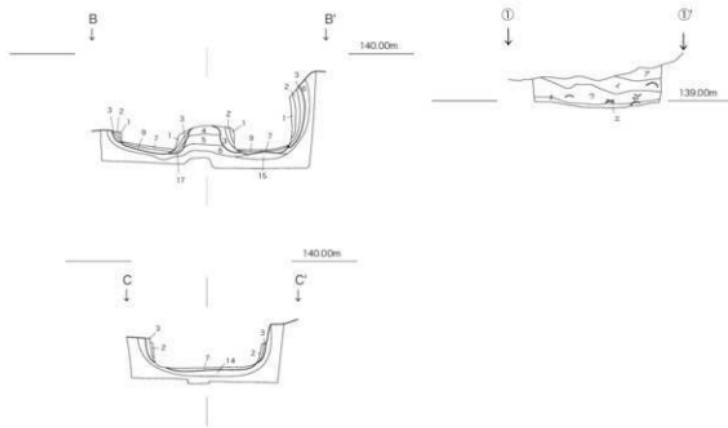
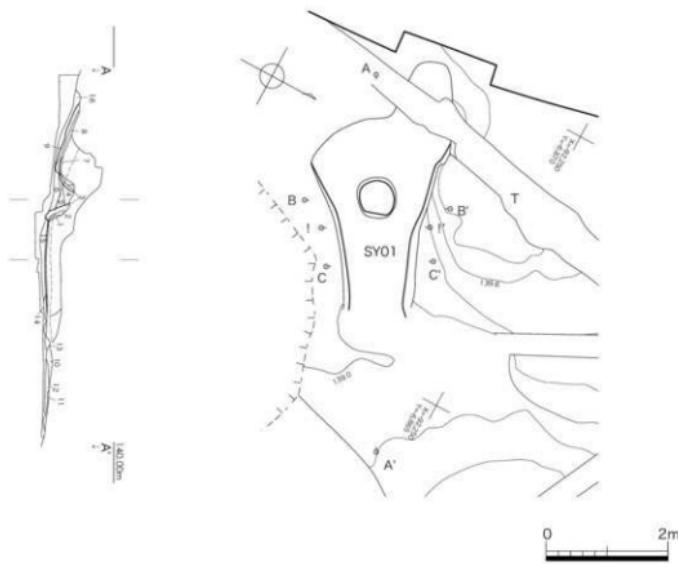


図5 SY01 施工実測図 (1:80, 但し B-B', C-C', ①-①' は 1:50)

(2) SY02

焚口から焼成室の一部まで約 5.30m が残存した。焚口の標高は 138.4m である。中軸線は N・4°・E、傾斜は焚口からやや落ちくぼみながらも分焰孔まではほぼ水平を保ち、分焰柱から焼成室にかけての平均斜度は 24° を保つ。燃焼室は焚口から分焰孔までの長さが 2.18m、焚口付近の幅 1.10m、分焰孔付近で 1.48m である。平面は焚口から分焰柱に向かって緩やかに広がり、分焰柱付近で張りが強くなる。また床面は硬く焼きしまっている。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、0.3m から 1m の高さまで残る。

分焰柱は長径 0.8m、短径 0.64m の梢円形であり、残存状況は良好であり、分焰孔を確認することができた。また構築状況を確認するために断ち割った結果、地山をくりぬいて構築されており、周囲を粘土により補強している。ただし一部は粘土が剥離していた。分焰孔は左が高さ 0.74m、幅 0.74m、右は高さ 0.78m、幅 0.68m のいずれも不正円形であり、左側が若干幅広い。

焼成室は分焰孔より 2.60m までが残存した。平面は分焰孔付近から急速に幅広くなり、残存部の最大幅は 3.12m を測る。最終焼成時の床面は埋土の掘削過程で荒れが生じ、分焰孔付近では剥離している。床面には馬爪型焼台とともに山茶楓・小畠が出土したが、焼台のうち焼成時の位置を保っていたものは窯側の 19 個にとどまり、中央部では確認することができなかつた。また断ち割りの結果、床面の補修が少なくとも 1 回以上行われている。壁面は分焰孔付近で高さ 0.72m までが残り、左側では粘土による補強が見られる。右側では補強を確認できなかつたが、窯体構築時の工具の痕跡が見られた。

窯体の規模

分焰孔

出土状況

表 4 SY02 燃焼室埋土観察表

番号	マンセル値	土 色	備 考
1	10YR6/6	明黄褐色	中粒砂に 5YR7/8 (橙色) 粘土が斑入り しまりなし
2	5YR7/8	橙色	粘土、10YR7/1 (灰白色) 粘土、10YR6/6 (明黄褐色) 中粒砂との 斑土
3	5YR7/8	橙色	粘土に 10YR6/6 (明黄褐色) 中粒砂がブロック状に混じる
4	5YR7/8	橙色	粘土、10YR6/6 (明黄褐色) 中粒砂との斑土に 10YR6/8 (明黄褐色) 粗粒砂がブロック状に混じる
5	2.5Y6/3	にぶい黄色	細粒砂と 10YR5/3 (にぶい黄褐色) 中粒砂が互層に堆積、焼土が混 じる、底部に 2.5Y6/1 (黄灰色) 粘土が堆積

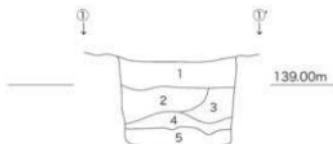


表5 SY02窓体断面観察表

番号	マンセル値	土色	備考
1	10YR5/8	黄褐色	シルト、酸化層
2	2.5YR5/8	明赤褐色	細粒砂、酸化層
3	2.5YR5/8	明赤褐色	中粒砂、酸化層
4	5YR6/6	橙色	中粒砂、酸化層
5	5Y4/1	灰色	分層柱補修粘土
6	5Y7/1	灰白色	分層柱補修粘土
7	10YR6/8	明黄褐色	分層柱補修粘土
8	10YR7/6	明黄褐色	分層柱補修粘土
9	SY8/1	灰白色	中粒砂
10	2.5Y7/4	浅黄色	細粒砂
11	2.5Y4/6	オリーブ褐色	細粒砂
12	N-3	暗灰色	分層柱構造粘土、風化著しい
13	2.5Y8/1	灰白色	還元層
14	5YR6/6	橙色	中粒砂、酸化層
15	2.5Y8/1	灰白色	中粒砂
16	10YR7/6	明黄褐色	床面
17	N-3	暗灰色	シルト、炭化物大量に含む
18	10R5/8	赤色	粘土
19	10YR6/1	褐灰色	シルト
20	10R5/8	赤色	中粒砂、酸化層
21	10YR7/2	にぶい黄橙色	中粒砂、10YR6/4（にぶい黄橙色）粘土がブロック状に混入
22	10YR7/6	明黄褐色	シルト
23	10YR6/8	明黄褐色	中粒砂、2.5Y7/6（明黄褐色）中粒砂が互層状に堆積
24	7.5YR6/8	橙色	粗粒砂
25	10YR7/2	にぶい黄橙色	粗粒砂、中礫を含む
26	10YR7/3	にぶい黄橙色	粘土
27	10YR7/3	にぶい黄橙色	粘土、2.5YR5/8（明赤褐色）粘土、N-3（暗灰色）中粒砂との斑土
28	10YR7/3	にぶい黄橙色	中粒砂、2.5Y6/4（にぶい黄色）粘土、2.5YR5/8（明赤褐色）中粒砂がブロック状に混入
29	10YR8/2	灰白色	中粒砂、7.5YR6/8（橙色）粗粒砂が互層状に堆積
30	10YR8/2	灰白色	粗粒砂
31	2.5Y5/6	黄褐色	中粒砂
32	N-2	黒色	炭化物
33	N-3	暗灰色	粘土、小礫混じる
34	2.5Y5/1	黄灰色	中粒砂
35	10YR5/6	黄褐色	細粒砂
36	10YR8/6	黄橙色	細粒砂
37	10YR7/6	明黄褐色	シルト粘質土
38	10R4/8	赤色	酸化層
39	2.5YR7/6	橙色	酸化層
40	10R4/8	赤色	酸化層

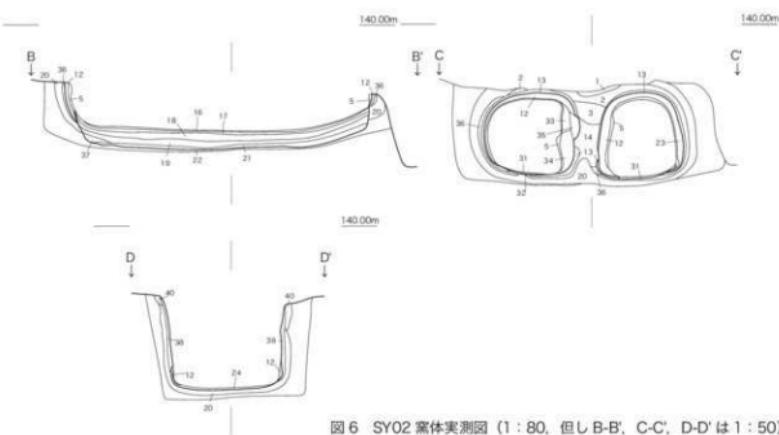
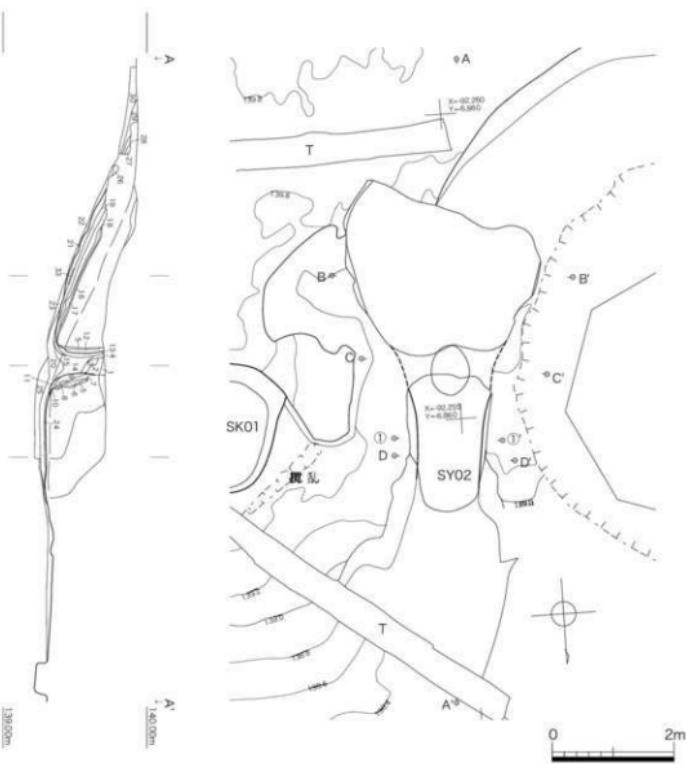


図6 SY02 窟室実測図 (1:80, 但し B-B', C-C', D-D' は 1:50)

(3) SY03

窓体の規模

焚口から焼成室の一部、約 3.20m が残存していた。焚口の標高は 139.3m である。中軸線は N-2°-W、傾斜は焚口からやや落ちくぼみ、焼成室の半ばから約 16°で立ち上がり、焼成室までほぼ一定の傾斜を保つ。

前庭部

SK01 前庭部は正確な範囲を確認することができないが、焚口周辺約 3.9m の範囲に平坦な部分があり、少なくともここまでを前庭部と捉えることができる。焚口の右側に土塁 1 基 (SK01)、焚口から伸びる溝 1 条 (SD01) が確認できた。SK01 は直径 2.21m のほぼ円形のプランを持つ。深さは上部が削平されているため検出面からの確認となるが、山側で 0.3m、谷側で 0.2m を測る。炭化物を含む明黄褐色の埋土からは、山茶椀が出土した。SD01 は北北東方向に伸び、末端は掘乱の影響を受けて確認できなかった。残存長は 2.60m、幅は焚口側で 0.14m、谷側で 0.18m である。なお焚口の左側は掘乱の影響を受けており、遺構を確認できなかった。

SK01

SD01

燃焼室は焚口から分焰柱の中心までの長さは 2.10m。焚口の標高は 139.3m である。焚口付近の幅は 1.00m、分焰柱との間から次第に広がり、分焰柱で 2.12m を数える。壁

表 6 SY03 窓体断面観察表

番号	マンセル値	土 色	備 考
1	2.5Y6/3	にぶい 黄色	シルト、10YR6/1 (褐灰色) 粘土が斑入、炭化物、焼土が混じる、表土
2	7.5Y8/1	灰白色	気泡が入る、還元層
3	10YR7/8	黄橙色	2.5Y7/3 (浅黄色) 中粒砂がブロック状に混じる、炭化物を含む、充填土
4	10Y4/1	灰色	下層は 2.5Y8/1 (灰白色) 中粒砂、還元層
5	2.5YR6/8	橙色	充填土
6	10YR7/2	にぶい 黄橙色	5YR6/0 (橙色) 粘土との斑土、充填土
7	5BG5/1	青灰色	分焰柱構築粘土
8	5Y5/1	灰色	分焰柱構築粘土
9	7.5GY6/1	緑灰色	分焰柱構築粘土
10	10YR8/6	黄橙色	下層は 2.5YR5/8 (明赤褐色)、分焰柱構築土
11	10YR6/2	灰黄褐色	2.5Y8/1 (灰白色) 粘土がブロック状に混じる、窓壁を含む、充填土
12	7.5YR7/6	橙色	下層は 10YR8/2 (灰白色) 中粒砂、酸化層
13	10YR7/8	黄橙色	10YR6/1 (褐灰色) 細粒砂がブロック状に混じる、充填土
14	10YR8/4	浅黄橙色	分焰柱構築粘土
15	7.5YR7/6	橙色	分焰柱構築粘土
16	10R6/8	赤橙色	粗粒砂、酸化層
17	7.5YR5/3	にぶい 褐色	燒土、炭化物が混じる
18	2.5YR6/8	橙色	酸化層
19	2.5YR6/8	橙色	酸化層
20	10YR7/6	明黄褐色	酸化層
21	10YR7/4	にぶい 黄橙色	酸化層
22	5YR5/3	にぶい 赤褐色	燒土、炭化物が混じる、酸化層
23	2.5YR5/8	明赤褐色	炭化物が混じる、充填土
24	10YR5/4	にぶい 黄褐色	炭化物が混じる、充填土

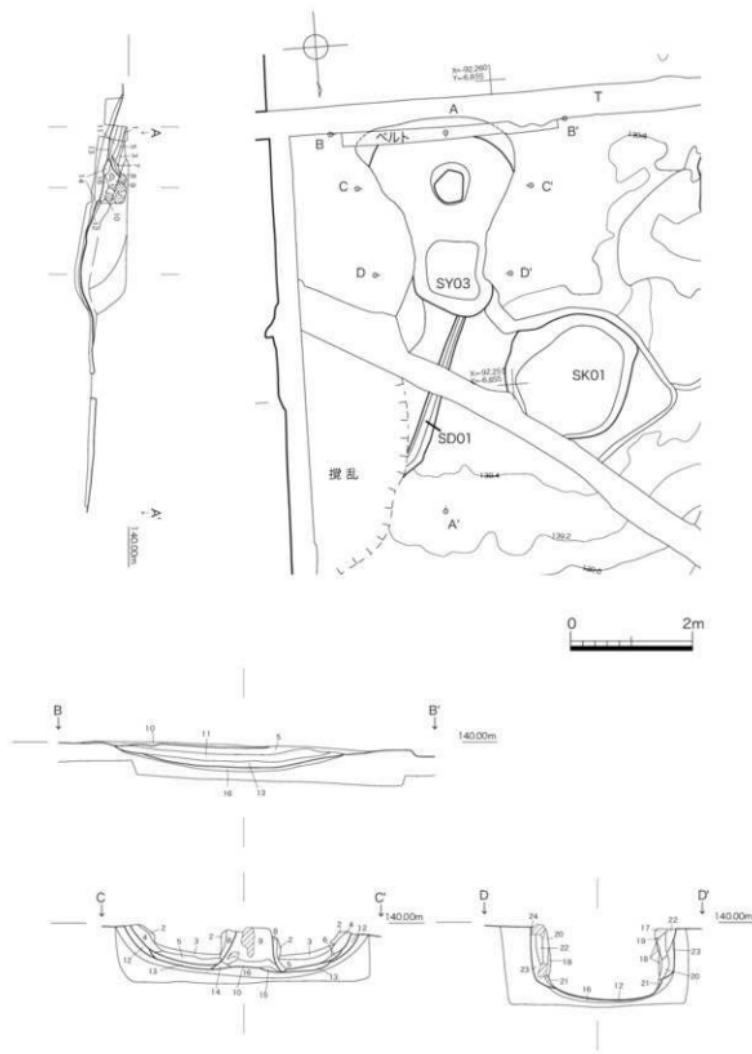


図7 SY03 窓体実測図 (1:80, 但し B-B', C-C', D-D' は 1:50)

窓壁の補修

分焰柱の補修

面は高さ 0.6m まで残り、垂直に立ち上がる。また断ち割りの結果、すき入粘土を用いて補修し、いわゆる「重ね」を埋め込んでいることも確認できた。分焰柱は長径 0.7m、短径 0.67m の不整形の楕円形であり、床面から高さ 0.41m までが残る。山茶椀の「重ね」を芯にすき入粘土で補修されている。

焼成室は分焰柱の中心から 1.10m まで残存する。床面は荒れがひどく、残りは悪い。壁面は 0.3m の高さまで残り、壁面には粘土による補修が施されている。また断ち割りの結果、床面は少なくとも 1 回の補修を受けていることがわかった。

3 前庭部整地層・灰層

第 1 節にも述べたように、前庭部整地層および灰層の存在が調査終了後に判明した。このため、調査区北側（以下、北壁と記述する）及び東側（以下、東壁と記述する）の土層断面を検討する（図 8）。

宇野隆夫は上束釜谷 1 号窯の灰層を検討し、須恵器を大量に包含する層と窓壁・焼土が多く少量の須恵器を含む層が互層に堆積することから、両層を 1 回の操業単位として捉えた上で、都合 23 回の操業を明らかにした（富山大学人文学部考古学研究室、1989）。また、服部郁は瀬戸市穴田南 6 号窯の灰層について、大きく炭化物を多量に含む「灰層」と、炭化物をあまり含まずシルト・砂粒が主体となる「間層」に分かれることから灰層の形成過程を検討した（服部、1991）。

先に述べたように、窓体は北方向の谷に向かい構築されていたが、北壁の堆積状況からは以下の 5 群を想定することができる。

A 群 黄色の細粒砂を中心とする。窓灰絶後の自然堆積層と考えられる。

B 群 黄褐色・暗褐色の砂質土を中心とする。12・18 層焼土・遺物を包含し、灰層として捉えられる。また 14 層と 35 層の間に平坦面として捉えると、前庭部整地層の存在が推定できる。

C 群 赤みの強い黄色の砂質土を中心とする。45 層・46 層・47 層は遺物・炭化物を大量に包含し、灰層として捉えることができる。45 層は西側になるほど薄い炭化物の層に転化、D 群との間に平坦な部分があることから、前庭部整地層を想定することができる。

D 群 黄橙色の砂質土を中心とする。56 層は遺物を包含し、灰層として捉えることができる。

E 群 浅黄色の砂質土を中心とする。68 層は遺物とともに窓壁を包含する。

以上の検討結果から、B 群から E 群が窓操業時の堆積層として捉えることができる。

更に県教育委員会による試掘調査のトレンドを検討すると（図 9）、同じく 5 群を想定することができる。このうち I 群は北壁 A 群に対応し、II 群と III 群の間、V 群に平坦面がみられることから、SY01・02 の前庭部に相当すると考えられる。

試掘トレンドの堆積状況

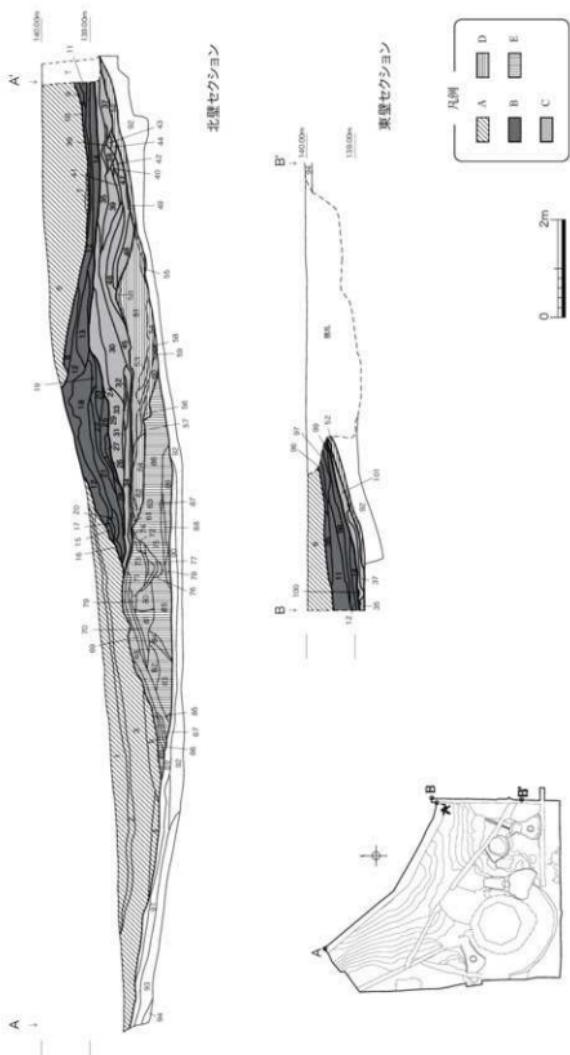


図8 調査区北壁・東壁埋土セクション図 (1:100)

表7 調査区北壁・東壁土層観察表

番号	分類	マンセル値	土色	特　　色
1	A	10YR7/6	明黄褐色	細粒砂
2	A	2,5Y6/1	黃灰色	細粒砂
3	A	10YR6/4	にぶい黄橙色	細粒砂
4	A	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト
5	A	10YR6/4	にぶい黄橙色	砂質シルト
6	A	10YR8/4	浅黄橙色	中粒砂、2,5Y8/1（灰白色）細粒砂と互層状に堆積
7	A	2,5Y6/1	黄灰色	細粒砂
8	B	7,5YR5/6	明褐色	中粒砂、窓壁・遺物を含む
9	B	10YR5/3	にぶい黄褐色	中粒砂、炭化物混じる、遺物を含む
10	B	10YR3/3	暗褐色	中粒砂、炭化物多く混じる
11	B	10YR5/4	にぶい黄褐色	中粒砂、7,5YR5/4（にぶい褐色）中粒砂が斑入、炭化物混じる、窓壁を含む
12	B	10YR4/1	褐灰色	細粒砂、焼土混じる
13	B	10YR5/3	にぶい黄褐色	中粒砂、10YR3/1（黒褐色）中粒砂が斑入
14	B	10YR7/1	灰白色	細粒砂、10YR7/6（明黄褐色）シルトとの斑上、底部に燒土を含む、炭化物が混じる
15	B	10YR6/2	灰黄褐色	細粒砂、炭化物混じる、窓壁を含む
16	B	10YR6/4	にぶい黄橙色	細粒砂、炭化物・焼土が混じる
17	B	10YR6/3	にぶい黄橙色	中粒砂、炭化物混じる
18	B	10YR4/3	にぶい黄褐色	中粒砂、焼土、遺物を含む
19	B	10R5/8	赤色	細粒砂、燒土
20	B	10YR5/3	にぶい黄褐色	中粒砂、窓壁を含む
21	B	10YR2/1	黒色	細粒砂、焼土が混じる
22	B	10YR5/4	にぶい黄褐色	中粒砂、窓壁を含む
23	B	2,5Y7/1	灰白色	中粒砂、10YR7/6（明黄褐色）砂質シルトが斑入
24	B	7,5YR7/8	黄橙色	シルト、10YR7/6（明黄褐色）シルトが斑入
25	B	10YR7/2	にぶい黄橙色	中粒砂、10YR8/6（黄橙色）細粒砂が斑入
26	B	10YR7/8	黄橙色	中粒砂
27	B	10YR7/6	明黄褐色	細粒砂、2,5Y8/1（灰白色）細粒砂、5YR6/8（橙色）細粒砂が斑入
28	B	10YR8/6	黄橙色	中粒砂、10YR6/6（明黄褐色）粘土が斑入
29	C	10YR8/6	黄橙色	細粒砂、2,5Y8/1（灰白色）細粒砂が斑入
30	C	7,5YR6/8	橙色	中粒砂、2,5Y7/1（灰白色）粘土が斑入
31	C	2,5YR6/8	橙色	細粒砂、10YR7/4（にぶい黄橙色）細粒砂が斑入
32	C	10YR7/4	にぶい黄橙色	細粒砂
33	C	2,5Y8/1	灰白色	中粒砂、10YR7/4（にぶい黄橙色）細粒砂と互層状に堆積
34	C	10YR7/6	明黄褐色	細粒砂、2,5Y6/8（明黄褐色）粘土が斑入
35	C	10YR8/4	浅黄橙色	細粒砂、7,5YR7/8（黄橙色）中粒砂が斑入
36	C	10YR8/4	浅黄橙色	砂質シルト、2,5Y8/1（灰白色）細粒砂が斑入
37	C	2,5Y8/4	淡黄色	砂質シルト、2,5Y8/1（灰白色）細粒砂が斑入、炭化物が少量混じる、しまりなし
38	C	2,5Y8/4	淡黄色	砂質シルト、2,5Y8/1（灰白色）細粒砂が互層状に堆積、炭化物が少量混じる
39	C	10YR7/6	明黄褐色	細粒砂、7,5YR7/8（黄橙色）粘土が斑入
40	C	2,5Y6/3	にぶい黄色	細粒砂、炭化物が少量混じる
41	C	2,5Y6/6	明黄褐色	細粒砂、2,5Y5/3（黄褐色）細粒砂との斑上、炭化物・焼土が少量混じる
42	C	10YR6/6	明黄褐色	細粒砂、2,5Y7/1（灰白色）細粒砂との斑上
43	C	10YR6/4	にぶい黄橙色	中粒砂、10YR8/1（灰白色）細粒砂が斑入
44	C	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト、10YR8/6（黄橙色）細粒砂、10YR8/1（灰白色）細粒砂との斑上
45	C	10YR4/4	褐色	細粒砂、10YR8/4（浅黄橙色）細粒砂がブロック状に混じる、遺物・窓壁が混じる

番号	分類	マンセル値	土 色	特 色
46	C	7.5YR5/4	にぶい褐色	中粒砂、焼土
47	C	10YR6/6	明黄褐色	細粒砂、炭化物が混じる、遺物を含む
48	C	10YR8/6	黄橙色	細粒砂、7.5YR7/8 (黄橙色) シルトとの斑土、10YR7/1 (灰白色) 中粒砂を層状に含む
49	C	2.5Y6/1	黄灰色	細粒砂、10YR7/4 (にぶい黄橙色) 細粒砂が斑入、炭化物を含む
50	D	10YR7/4	にぶい黄橙色	細粒砂
51	D	7.5YR7/8	黄橙色	中粒砂、10YR8/1 (灰白色) 粘土が斑入
52	D	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト、炭化物が少量混じる
53	D	10YR7/8	黄橙色	中粒砂、10YR8/4 (浅黄橙色) 細粒砂、2.5Y7/1 (灰白色) 細粒砂との斑土、炭化物を含む
54	D	2.5Y7/4	浅黄色	細粒砂、2.5Y8/1 (灰白色) 細粒砂が斑入
55	D	10YR7/8	黄橙色	中粒砂、10YR8/1 (灰白色) 細粒砂、2.5Y7/1 (灰白色) 粘土との斑土
56	D	5YR5/6	明赤褐色	中粒砂
57	D	10YR8/1	灰白色	細粒砂、10YR7/8 (黄橙色) 細粒砂との斑土、焼土が混じる
58	D	10YR5/4	にぶい黄褐色	中粒砂
59	D	10YR7/2	にぶい黄橙色	砂質シルト、7.5YR7/6 (橙色) 中粒砂との斑土
60	D	10YR7/2	にぶい黄橙色	細粒砂、2.5Y8/1 (灰白色) 中粒砂が斑入
61	D	7.5YR7/8	黄橙色	中粒砂、2.5Y7/4 (浅黄色) 細粒砂が斑入、炭化物が混じる
62	D	7.5YR7/8	黄橙色	中粒砂、7.5YR7/3 (にぶい橙色) 粘土、5YR6/8 (橙色) 細粒砂が斑入
63	D	5YR6/8	橙色	細粒砂、炭化物を含む
64	D	7.5YR7/6	橙色	中粒砂、10YR8/1 (灰白色) 細粒砂が斑入、炭化物が混じる
65	E	10YR6/4	にぶい黄橙色	シルト
66	E	10YR7/6	明黄褐色	砂質シルト、窓壁を含む
67	E	10YR6/2	灰黄褐色	シルト、炭化物が混じる
68	E	10YR7/6	明黄褐色	シルト、窓壁・遺物を含む
69	E	7.5YR7/6	橙色	細粒砂、2.5YR7/3 (淡赤橙色) 細粒砂が斑入
70	E	2.5Y7/4	浅黄色	細粒砂、2.5Y8/2 (灰白色) 細粒砂との斑土、炭化物が混じる
71	E	7.5YR6/6	橙色	中粒砂、10YR8/1 (灰白色) 粘土が斑入
72	E	2.5Y7/3	浅黄色	細粒砂、7.5YR7/6 (橙色) 中粒砂が斑入
73	E	2.5Y7/3	浅黄色	砂質シルト
74	E	2.5Y7/2	灰黄色	細粒砂、7.5YR7/6 (橙色) 中粒砂が斑入
75	E	7.5YR7/6	橙色	中粒砂、2.5Y7/2 (灰黄色) シルトが斑入、焼土が斑入
76	E	7.5YR7/6	橙色	中粒砂、2.5Y7/2 (浅黄色) 細粒砂、10YR6/4 (にぶい黄橙色) 細粒砂との斑土
77	E	2.5Y7/2	灰黄色	細粒砂、10YR8/1 (灰白色) 細粒砂が斑入
78	E	7.5YR6/8	橙色	中粒砂、2.5Y7/2 (灰黄色) 細粒砂、7.5YR5/6 (明褐色) 砂質シルトとの斑土
79	E	2.5Y7/2	灰黄色	中粒砂、斑土が斑入
80	E	7.5YR7/6	橙色	中粒砂、2.5Y5/6 (黄褐色) 細粒砂が斑入
81	E	7.5YR8/6	浅黄橙色	中粒砂、2.5Y7/2 (灰黄色) 細粒砂、10YR8/1 (灰白色) 中粒砂が斑入
82	E	2.5Y7/3	浅黄色	細粒砂、5YR6/8 (橙色) 粘土、10YR8/1 (灰白色) 細粒砂との斑土
83	E	2.5Y7/3	浅黄色	細粒砂、7.5YR6/8 (橙色) 中粒砂が斑入
84	E	7.5YR6/6	橙色	中粒砂、2.5Y7/3 (浅黄色) 細粒砂が斑入
85	E	2.5Y6/2	灰黄色	粘質シルト
86	E	7.5YR7/8	黄橙色	中粒砂、2.5Y7/4 (浅黄色) シルト、5YR5/8 (明赤褐色) 中粒砂が斑入
87	E	7.5YR7/8	黄橙色	中粒砂、5YR6/8 (橙色) 砂粒砂がブロック状に斑入
88	E	2.5Y7/2	灰黄色	細粒砂、7.5YR7/8 (黄橙色) 中粒砂が斑入
89	E	7.5YR7/8	黄橙色	中粒砂、2.5Y7/3 (浅黄色) 細粒砂、5YR6/8 (橙色) 細粒砂との斑土
90	F	10YR6/4	にぶい黄橙色	粘質シルト、しまりなし
91	F	2.5Y6/4	にぶい黄色	シルト、しまりなし

番号	分類	マンセル値	土 色	特 色
92		10YR6/6	明黄褐色	砂質シルト、炭化物が少量混じる
93		2.5Y6/4	にぶい黄色	砂質シルト
94		5YR6/6	橙色	粘土
95	B	10YR6/6	明黄褐色	粘土
96	B	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト、炭化物を多く含む
97	B	10YR5/2	灰黄褐色	中粒砂、7.5YR6/8（橙色）砂質シルトが斑入
98	B	10YR6/3	にぶい黄橙色	中粒砂、7.5YR6/8（橙色）砂質シルトが斑入、上層に炭化物を多く含む
99	B	5YR6/6	橙色	中粒砂、燒土を含む
100	B	7.5YR6/2	灰褐色	細粒砂
101		10YR7/8	黄橙色	シルト

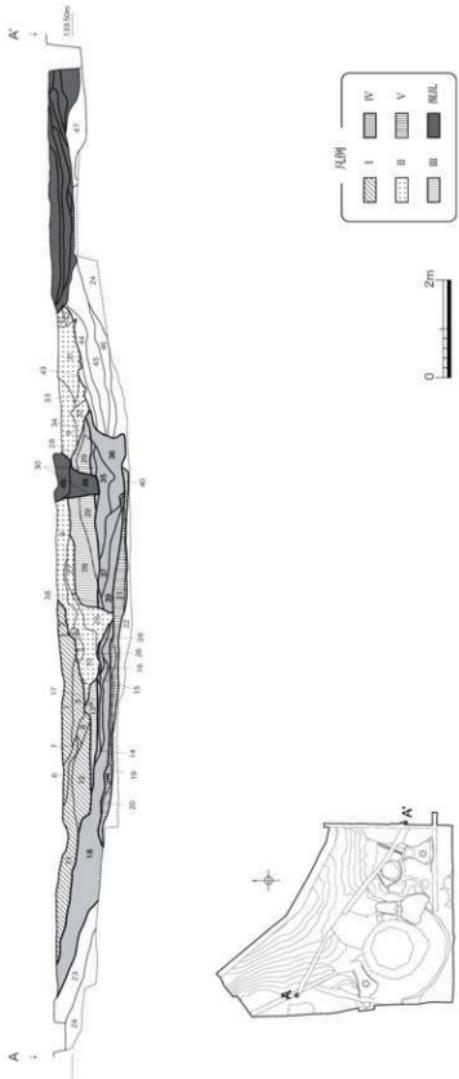


図9 県試掘トレンチセクション図 (1 : 100)

表8 塚試掘トレンチ土層観察表

番号	分類	マンセル値	土色	種別	特色
1	I	2.5Y7/1	灰白色	細粒砂	
2	I	2.5Y5/6	黃褐色	細粒砂	
3	I	10YR6/6	明黃褐色	細粒砂	
4	II	10YR6/6	明黃褐色	細粒砂	10YR5/1 細粒砂が少量混じる
5	II	10YR5/4	にぶい黃褐色	細粒砂	10YR6/6 細粒砂ブロック状に混じる、炭化物・遺物混じる
6	I	10YR6/6	明黃褐色	細粒砂	7.5YR7/8 中粒砂との斑土
7	I	10YR6/6	明黃褐色	細粒砂	7.5YR7/8 シルトが少量混じる
8	I	7.5Y7/1	灰白色	細粒砂	10YR6/6 細粒砂、7.5YR7/1 細粒砂との斑土
9	II	10YR6/6	明黃褐色	細粒砂	底部に窓壁混じる
10	II	7.5Y7/1	灰白色	細粒砂	10YR6/6 細粒砂、7.5YR7/1 細粒砂との斑土、底部に窓壁混じる
11	I	10YR6/6	明黃褐色	細粒砂	
12	I	10YR7/6	明黃褐色	シルト	
13	III	10YR5/8	黃褐色	シルト	
14	IV	10YR4/4	褐色	細粒砂	炭化物混じる
15	IV	10YR6/6	明黃褐色	シルト	
16	IV	2.5Y6/4	にぶい黄色	砂質シルト	10YR5/2 シルトが混じる、炭化物混じる
17	IV	7.5YR7/8	黃褐色	粘土	10YR6/6 細粒砂との斑土
18	IV	2.5Y7/1	灰白色	中粒砂	7.5YR7/8 粘土との斑土
19	V	10YR6/6	明黃褐色	細粒砂	遺物を含む
20	V	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト	7.5YR7/8 粘土との斑土
21	V	2.5YR5/8	明赤褐色	粘土	底層に炭化物
22	-	10YR6/6	明黃褐色	砂質シルト	7.5YR6/6 粘土との斑土
23	-	2.5Y6/1	黃灰色	砂質シルト	縫まりなし
24	-	5YR6/6	橙色	粘土	2.5Y7/4 粘土が混じる
25	II	10YR4/3	にぶい黃褐色	砂質シルト	7.5YR7/8 砂質シルト、7.5Y7/4 中粒砂との斑土、窓壁混じる
26	IV	10YR4/3	にぶい黃褐色	砂質シルト	
27	II	2.5Y7/3	浅黄色	中粒砂	10YR7/8 中粒砂との斑土
28	III	2.5Y7/3	浅黄色	中粒砂	10YR7/8 粘土が斑入
29	III	2.5Y7/8	黄色	中粒砂	2.5Y7/2 粘土が斑入
30	IV	2.5Y7/2	灰黄色	中粒砂	10YR7/8 中粒砂が斑入
31	II	10YR6/6	明黃褐色	細粒砂	炭化物、窓壁、遺物混じる
32	II	10YR4/3	にぶい黃褐色	細粒砂	7.5Y6/4 中粒砂、7.5YR7/8 中粒砂との斑土
33	II	10YR7/4	にぶい黄褐色	細粒砂	7.5YR7/6 砂質シルトが混じる
34	III	10YR4/3	にぶい黃褐色	中粒砂	10YR7/8 粘土との斑土、炭化物少量混じる
35	IV	7.5YR7/6	橙色	粘土	10YR7/8 粘土、7.5Y7/2 中粒砂との斑土
36	IV	7.5YR7/6	橙色	粘土	10YR7/8 粘土との斑土
37	IV	10YR7/1	灰白色	中粒砂	10YR7/8 粘土がブロック状に混じる
38	IV	10YR4/2	灰黃褐色	砂質シルト	下層に 10YR7/1 中粒砂と 10YR7/1 粘土が斑入
39	IV	7.5YR7/6	橙色	粘土	10YR7/8 粘土、7.5Y7/2 中粒砂との斑土
40	V	10YR7/1	灰白色	細粒砂	下層に炭化物、遺物混じる
41	II	10YR4/4	褐色	中粒砂	2.5YR5/6 粘土、5YR6/6 中粒砂との斑土、炭化物混じる
42	II	2.5Y6/4	にぶい黄色	細粒砂	
43	-	2.5Y7/2	灰黄色	中粒砂	10YR7/8 中粒砂が斑入
44	-	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	縫まりなし
45	-	10YR6/6	明黃褐色	細粒砂	縫まりなし
46	-	2.5Y6/4	にぶい黄色	砂質シルト	
47	-	2.5YR5/8	明赤褐色	粘土	2.5Y8/1 中粒砂との斑土、炭化物混じる
48	搅乱	10YR6/6	明黃褐色	細粒砂	10YR7/3 細粒砂、7.5Y6/8 中粒砂との斑土
49	搅乱	10YR4/3	にぶい黃褐色	細粒砂	10YR7/8 粘土、7.5Y7/2 中粒砂がブロック状に混じる、炭化物多く混じる

1 概要

調査区内で出土した遺物のほとんどが無釉の碗・皿、いわゆる「山茶椀」及びそのセット関係で出土する「小皿」である。山茶椀は灰釉陶器生産の系譜を引く無釉の陶器で、瓷器系陶器第II類に分類される（檜崎、1977）。このほか陶丸、焼台・蓋などの窯道具、土師質の鍋、陶質の甕、施釉陶器の破片が出土した。山茶椀および小皿について底部が1/2以上残存したものを1個体として数えたところ、山茶椀が2790個体、小皿が260個体出土した。遺物は調査区北側を中心に出土したが、遺構内の出土遺物のほか、休憩施設の建造あるいは取り壇しなどにより搅乱を受けた状態で出土した遺物がある。また前庭部及び灰層の分布が想定される範囲では層位を分けて取り上げなかつたため、トレンチから出土した遺物とともに一括して扱うことにする。

2 形態分類

山茶椀・小皿それぞれについて、3基の窯体内から出土した遺物をもとに形態分類を試みる。

(1) 山茶椀

きめの荒い胎土をもつ、いわゆる東海地方南部系山茶椀であり、焼成時に生じた長石粒の吹き出しが顯著である。窯体内から出土した遺物を観察したところ、底部内面から体部にかけての整形上の差異に特徴が見られることがわかつたため、底部内面の整形技法、および底部外縁の切り離し痕についてそれぞれ分類した。

底部内面…整形技法上、3類に分けることができる。

A類 底部内面の押圧は中心部に施され、浅く窪む。タマぬぐいの痕跡（いわゆる「殺し」）は押圧部に見られるが、一部不明瞭なものがある。鍛の整形痕は観察できるものと観察できないものがある。体部内面との境目には同心円状の窪みが観察できる（図10-A）。



図10-A A類底部内面

山茶椀

出土個体数

南部系山茶椀

底部内部の整形

B類 底部内面の押圧は中心部に強く加えられ、深く窪む。「殺し」が残り、鍛の整形痕が明瞭に観察できる。体部内面との境目は不明瞭なものが多い（図10-B）。



図10-B B類底部内面

C類 底部は平坦であり、「殺し」が明瞭に観察できる。鍛の整形痕は明瞭なものと不明瞭なものがある。体部との境目は角張る（図10-C）。



図10-C C類底部内面

このほか底部内面に鍛の整形により生じた中心部の突起が残り、「殺し」がみられないもの（D類）や、自然軸のため不明瞭なものがある。

底部外縁…糸切り痕の形状から2類に分類が可能である。ただし技法上の違いについては伊藤正人氏の分析にあるように、定説がないのが現状である（名古屋市、1998）。

1類 糸の燃り目が明瞭に観察できるもの。

2類 糸の燃り目が観察できず、砂の移動痕が2～3本観察されるもの。

山茶椀の形態分類

以上の検討結果をもとに体部および口縁の形状、高台の整形技法を加味すると、以下の3類に分類される。なお法量は平均値を表す。

A類 器高5.5cm、口径14.2cm、底径5.7cm前後。ただし器高の高く、口径の狭いものが一部見られる。体部は底部から緩やかに湾曲して立ち上がるるものと、直線的に立ち上がるものがある。口縁は直下で施された縮めナデのため外反し、端部は肥厚する。底部内面には浅く押圧を施し、体部との境目には同心円状の窪みが観察できる。底部外縁の整形は1類が多い。高台は内面を強くなでつけ断面三角形を呈するが、台形に潰れるものも見られる。羽根痕が明瞭に観察される。

B類 器高5.7cm、口径14.0cm、底径5.8cm前後。A類同様、器高の高く、口径の狭いものが一部見られる。体部は直線的に立ち上がるものが多いが、緩やかに湾曲するものも見られる。口縁は外反し、端部は肥厚するがA類に比べて小さい。底部内面は押圧を強く施し、窪むものが多い。底部と内面の境は不明瞭

である。底部外面は1類が多いが、高台貼り付けの際に生じた押圧により部分的に消失する。高台は内面を強くなでつけ断面三角形を呈するが、一部は台形に潰れたものも見られる。初殻痕が観察されるが、一部に剥離が見られる。

C類 器高5.2cm、口径13.9cm、底径6.0cm前後。体部は直線的に立ち上がるが、一部は弱く湾曲するものも見られる。口縁の縮めナデは弱く、端部は尖る。底部は平坦となり、中心に強い「殺し」を施す。体部との境目は角張り、立ち上がりも直線的である。底部外面の整形は2類が多数を占める。高台は台形につぶれ、初殻痕が明瞭に観察される。

(2) 小皿

底部外面の調整法、および体部の立ち上がりに着目すると、それぞれ2種に分類可能である。底部内面についても分類を試みたが、明確に区分することは難しい。

底部外面

- a類 底部の直径が4.2cm前後のもの。糸切り痕は山茶椀1類同様、明瞭に観察できる。
b類 底部の直径が5.5cm前後のもの。糸切り痕は山茶椀2類同様、明瞭に観察できない。

体部外面

- 1類 底部から湾曲して立ち上がる。また途中に稜線が生ずるものがあるが、形態的に区別が難しいため、このなかに含める。
2類 底部からの立ち上がりが直線的なもの。

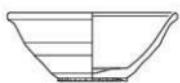
以上の分類をもとにまとめると、a類と1類、b類と2類に強い相関関係が見られることが判明した。したがって、以下の2類に分類可能である。

- a類 底部の直径が4.2cm前後と小さく、糸切り痕が明瞭に観察できる。外面は底部から湾曲して立ち上がり、口縁は縮めナデ調整が甘く、端部が尖る。また外面の途中に稜線が生ずるものもある。
b類 底部の直径が5.5cm前後あり、a類に比べ大きい。糸切り痕は不明瞭である。外面は底部から直線的に立ち上がり、口縁は縮めナデ調整が甘く、端部が尖る。

底面外部の整形

体部外面の整形

小皿の形態分類



A類



B類



C類



a類



b類

図11 山茶椀・小皿の形態分類

3 遺構別出土状況

次に遺構別の出土状況を検討する。表9は、窓体内から出土した山茶椀・小皿の個体数を、形態別にまとめたものである。

- SY01 山茶椀は129点を数え、B類が123点と最も多く、ついでA類が6点、C類は確認できなかった。小皿は93点を数え、すべてa類であった。
- SY02 山茶椀は280点を数え、A類が162点と最も多く、ついでB類が81点、C類が37点であった。小皿は31点を数え、底部のみ残る1点を含め、すべてa類であった。
- SY03 山茶椀はSY03が131点、SK01が33点を数える。SY03ではC類が105点と大半を占め、A類が12点、B類が11点、その他3点である。またSK01ではC類が30点、A類が2点、B類が1点である。小皿はSY03から8点出土したが、a類が1点、b類は7点を数えた。

表9 遺構別出土遺物形態分類表

遺構	個体数	見込み	山茶椀		
			外 面		外面計
			A	B	
SY01	129	A	6	1 2	6 0
		B	123	1 2	122 1
		C	0	1 2	0 0
		D	0	1 2	0 0
SY02	280	A	162	1 2	150 12
		B	81	1 2	76 5
		C	37	1 2	35 4
		D	0	1 2	0 0
SY03	131	A	12	1 2	2
		B	11	1 2	9 2
		C	105	1 2	24 81
		D	3	1 2	1 2
SK01	33	A	2	1 2	2
		B	1	1 2	0 0
		C	30	1 2	0 30
		D	0	1 2	0 0
遺構全体	573	A	182	1 2	160 22
		B	216	1 2	208 8
		C	172	1 2	57 115
		D	3	1 2	1 2
					426
					147

遺構	個体数	小皿			外面計
		底部	外 面		
SY01	93	a 93	1 2 1	92 1 0	1 92
		b 0	1 2	0 0	1
		その他 0	1 2	0 0	
SY02	31	a 30	1 2	30 0	1 31
		b 0	1 2	0 0	
		その他 1	1 2	1 0	0
SY03	11	a 1	1 2	1 0	1 2
		b 7	1 2	0 7	
		その他 3	1 2	1 2	9
遺構全体	135	a 124	1 2	123 1	1 125
		b 7	1 2	0 7	
		その他 4	1 2	2 2	10

4 陶丸・窯道具・その他の遺物

(1) 陶 丸

球形、胎土は比較的細かい。369は蓋に転用されたと考えられる山茶椀に付着する。また372は2個体分にあたる山茶椀の口縁に付着しているため、山茶椀を利用して焼成された可能性がある。

(2) 窯道具

焼 台 いわゆる馬爪型焼台である。ただしSY02床面から出土したもの以外は廃棄したため、窯体ごとの検討はできない。ただし一部の焼台には、高台部分に指圧痕が残るもののが見られる。図示した2点(367・368)は山茶椀底部が軸着する。なお、小皿用焼台は調査時点で確認されていないこと、小皿の内面全体に降灰したものがあることから、小皿は山茶椀の上に重ねて焼成したと考えられる。

障焰棒 軸着した山茶椀の中には、窯体・分焰柱の補修に再利用されたものと、障焰棒として再利用されたものがある。調査区ではSY03を中心に出土している。図示したものは後者として利用された可能性がある。いずれも二次的に火を受けているため、自然軸が付着し、硬く焼き締まる。

蓋 出土した山茶椀のうち、外面全体および内面に自然軸が付着したものは蓋として使用した可能性が高い。調査区内からは有台・無高台の2種類が出土しており、前者は371のように焼成済みのものを転用したもの、後者は蓋に使用することを目的に作られたと考えられる。底部が1/2以上残ったものを1個体と

馬爪型焼台

有台・無台の比率

して数えたところ、2790 個体中有台は 80 点、無台は 32 点であった。池本正明氏の教示によると、NA311 窯の場合無台椀 250 点のうち蓋は 71 点であり、多くは転用したものであることを考えると、単純な比較は難しいが I-G-2 号窯では蓋として焼成した無台椀の比率が高いといえる。370 は無台の椀。整形時に径 6mm の孔を開けており、最初から蓋として使用するために作られたと考えられる。整形時に底部・腰部に穿孔する事例は多治見市内の窯跡から出土しており、なかでも小名田西ヶ洞 2 号・3 号窯から出土した無高台の椀に類似するものがある（多治見市、1985）。

底部穿孔

無台碗

調査区内から 2 点出土した。器厚は厚い。胎土は灰白色に近く、長石粒の吹き出しが見られる。373 は北壁 45 層から出土、口縁部を欠く。体部は内湾して立ち上がる。底部内面は瘤むが中心部は隆起し、「殺し」が施される。体部との境目に段を有し、内湾して立ち上がる。底部外面には糸切痕が明瞭に観察できる。374 は底部から口縁まで残存する。外面は内湾して立ち上がり、口縁にかけてわずかに外反する。口縁端部の調整は甘く、尖る。底部内面から体部にかけての境目は不明瞭、鍛の痕跡が残る。底部外面に糸切り痕が明瞭に観察できる。内面に自然釉がかかり、あるいは蓋として利用された可能性がある。

(3) その他の遺物

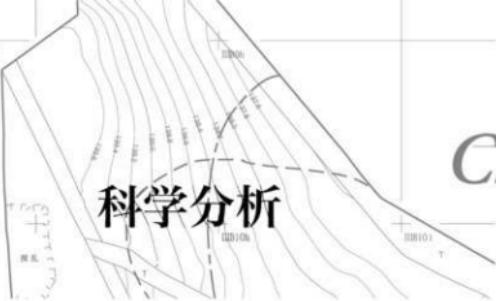
伊勢型鍋 遺構の検出過程で出土した。頸部から口縁部が残存するもの 1 点（375）、肩から頸部の一部が残るもの 1 点、口縁端部のみ残るものが 1 点あり、底部・体部はいずれも失われている。これらが 1 個体か、あるいは複数の個体かは不明である。図示したものは頸部がほぼ直立し、口縁は折り返されて肥厚する。内面にナデ調整が見られる。

甕

胸部の破片 1 点が出土した（376）。胎土は濃い灰色であり、粘土紐積み上げの痕跡が観察される。外面にヘラ削り調整、内面にはナデ調整が施される。搬入品の可能性が高い。

施釉陶器

口縁部のみが残存する。古瀬戸後期の捕鉢である。搬入品の可能性が高い。



Chapter 4

科学分析

1

考古地磁気測定

(1) はじめに

ここでは3基の窯跡について床面焼土の熱残留磁化を測定し、その磁化方向から各窯跡の焼成年代を推定した結果を記す。なお、測定は株式会社パレオ・ラボが実施した。以下の文章は、藤根久・Zauri Lomatize両氏執筆による報告書を、編集者の責任の下に要約したものである。

(2) 考古地磁気年代推定の原理

地球上の地磁気は真北からの角度である偏角 (Declination) と水平面からの角度である伏角 (Inclination)、および強度 (全磁力) によって表される。これら地磁気の三要素 (偏角・伏角・全磁力) は観測する地点によって異なる値になり、現在の地磁気の分布は全世界地磁気三要素の観測データの解析から、地球の中心に棒磁石を置いた時にできる磁場分布に近似される。現在、この付近の偏角は約6.84°W、伏角は約48.40°、全磁力 (水平分力) は約30843.5 (nT) である (理科年表、1993; いずれも1990年値)。また、こうした地磁気は時間の経過とともに変化し、ある地点で観測される偏角や伏角あるいは全磁力の値も時代とともに変化する。この地磁気の変動を地磁気永年変化と呼んでいる。

地磁気の三要素

過去の地磁気の様子は、高温に焼かれた窯跡や軽跡などの焼土、地表近くで高温から固結した火山岩あるいは堆積物などに残る強磁性鉱 (磁鐵鉱など) の残留磁化測定から知ることができる。地磁気の方向は少しずつではあるが変化しており、その変化は地域によって違っていることが分かっている。考古地磁気では、焼土の残留磁化 (熱残留磁化) が、焼かれた当時の地磁気の方向を記録していることを利用する。過去2,000年については、西南日本の窯跡や軽跡の焼土の熱残留磁化測定から、その変化が詳しく調べられている (広岡、1977; Shibuya, 1980)。一方、地磁気には地域差が認められることから、東海地方の地磁気永年変化曲線も求められている (広岡・藤澤、1998)。

考古地磁気

こうした年代のよく分かっている窯跡焼土や火山岩の熱残留磁化測定などから地磁気永年変化曲線が得られると、逆に年代の確かな遺跡焼土などの残留磁化測定を行い、先の地磁気永年変化曲線と比較することによって、その焼成時の年代が推定できる。また、年代が推定されている窯跡焼土などについても、土器とは違った方法で焼成時の年代を推定できることから、さらに科学的な裏付けを得ることができる。この年代推定法が考古地磁気による年代推定法である。

採取資料

(3) 試料採取と残留磁化測定

考古地磁気による年代推定は、a) 測定用試料の採取および整形、b) 残留磁化測定および統計計算を行い、c) 地磁気永年変化曲線との比較を行い、焼成年代を推定する。なお、試料の磁化保持力や焼成以後の二次的な残留磁化の有無などを確認するために、段階交流消磁も行った。

a) 測定用試料の採取および整形

整形試料は、床焼土面において、①一辺約4cmの立方体試料を取り出すため、瓦用ハンマーなどを用いて、対象とする部分（良く焼けた部分）の周囲に溝を掘る。②薄く溶いた石膏を試料全体にかけ、試料表面を補強する。③やや固め（練りハミガキ程度）の石膏を試料上面にかけ、すばやく一辺5cmの正方形のアルミ板を押し付け、石膏が固まるまで放置する。④石膏が固まった後、アルミ板を剥し、この面の最大傾斜の方位および傾斜角を磁気コンパス（考古地磁気用に改良したクリノメータ）で測定し、方位を記録すると同時に、この面に方位を示すマークと番号を記入する。⑤試料を掘り起こした後、試料の底面に石膏をつけて補強し持ち帰る。⑥持ち帰った試料は、ダイヤモンド・カッターを用いて一辺3.5cm・厚さ2cm程度の立方体に切断する。この際切断面が崩れないように、一面ごとに石膏を塗って補強し、熱残留磁化測定用試料とする。採取した試料は、SY01が16試料（2個破損）、SY02が13試料、SY03が14試料である。

b) 段階交流消磁、熱残留磁化測定および統計計算の結果

熱残留磁化測定は、リング・コア型スピナー磁力計（SMM-85：㈱夏原技研製）を用いて測定した。磁化保持力の様子や放棄された後の二次的な磁化の有無を確認するため、任意1試料（SY01がNo.4、SY02がNo.12、SY03がNo.7）について交流消磁装置（DEM-8601：㈱夏原技研製）を用いて段階的に消磁を行い、その都度スピナー磁力計を用いて残留磁化を測定した。その結果、試料の磁化強度は10.2～10.4emuと強いことが分かった。NRM（自然残留磁化）に対する150Oe消磁の相対強度は、SY01のNo.4が93.2%、SY02のNo.12が97.7%、SY03のNo.7が79.7%であった。さらに、磁化方向は、中心に向かって直線的に変化し、安定した方向を記録していることが分かった。

以上の理由から、150Oeで消磁した際の残留磁化方向が焼成時の磁化方向であると判断した。そこで、これ以外の段階交流消磁を行っていない試料も、150Oe消磁した後に残留磁化を測定した。複数試料の測定から得た偏角(D_i)・伏角(H_i)を用いて、Fisher(1953)の統計法により平均値(D_m , I_m)を求めた。一部の集合から外れた試料を除いた後の信頼度計数は、SY01が1219.71、SY02が1871.70、SY03が2574.92と大きな値であり、伏角および偏角の各誤差は小さな値であった（表10）。

求めた熱残留磁化方向は、真北を基準とする座標に対する数値に補正する。偏角は、建設省国土地理院の1990.0年の磁気偏角近似式から計算した $6.84^{\circ}W$ を使用した。その結果は、広岡による地磁気変化曲線（広岡、1977）とともにプロットした（図10）。図中測定点に示した楕円は、フッシャー（1953）の95%信頼角より算定した偏角および伏角の各誤差から作成したものである。

表 10 残留磁化測定結果

遺構名	試料No.	偏角 (E)	伏角 (C)	強度 ($\times 10^{-3}$ emu)	備考	統計処理項目	統計値
SY01 150 Oe 消磁	1	13.5	60.9	0.627	計算から除外	試料数 (n)	10
	2	23.8	55.0	66.920	計算から除外	平均偏角 D m (E)	7.12
	3	11.0	60.8	19.020		平均伏角 Im (C)	61.64
	4	7.9	61.2	61.200	段階交流消磁	誤差角 δD (C)	2.91
	5	0.3	61.4	0.948		誤差角 δI (C)	1.38
	6	0.2	63.6	0.746		信頼度計数 (k)	1219.71
	7	-0.7	62.8	1.426	計算から除外	平均磁化強度 ($\times 10^{-3}$ emu)	9.95
	8	6.1	61.4	0.323		破損	
	9	8.5	63.9	0.925		破損	
	10	8.3	63.1	0.527			
	11	10.4	60.8	0.548			
	12				計算から除外		
	13						
	14	9.0	59.9	1.009			
	15	8.8	59.8	14.270			
	16	4.0	60.0	15.910			
遺構名	試料No.	偏角 (E)	伏角 (C)	強度 ($\times 10^{-3}$ emu)	備考	統計処理項目	統計値
SY02 150 Oe 消磁	1	6.7	63.7	0.543	計算から除外	試料数 (n)	11
	2	10.7	62.3	0.363		平均偏角 D m (E)	10.81
	3	14.8	61.7	0.332		平均伏角 Im (C)	61.07
	4	11.7	61.4	0.460		誤差角 δD (C)	2.19
	5	8.0	62.0	0.297		誤差角 δI (C)	1.06
	6	10.4	59.0	0.290		信頼度計数 (k)	1871.70
	7	11.7	58.4	0.272		平均磁化強度 ($\times 10^{-3}$ emu)	2.01
	8	7.7	60.0	0.407			
	9	12.4	62.9	5.648			
	10	12.5	62.8	4.760	段階交流消磁		
	11	7.5	61.1	4.760	計算から除外		
	12	27.7	66.7	4.438			
	13	11.7	60.0	0.499			
	14						
遺構名	試料No.	偏角 (E)	伏角 (C)	強度 ($\times 10^{-3}$ emu)	備考	統計処理項目	統計値
SY03 150 Oe 消磁	1	12.1	58.4	2.974		試料数 (n)	9
	2	8.9	55.6	1.193	計算から除外	平均偏角 D m (E)	10.34
	3	10.8	60.0	2.368		平均伏角 Im (C)	59.73
	4	12.1	59.1	2.577		誤差角 δD (C)	2.00
	5	3.5	59.6	1.753	計算から除外	誤差角 δI (C)	1.01
	6	8.9	58.6	1.165		信頼度計数 (k)	2574.92
	7	5.8	60.3	3.152	段階交流消磁	平均磁化強度 ($\times 10^{-3}$ emu)	2.37
	8	8.9	61.3	0.647			
	9	9.0	60.2	5.894			
	10	10.6	60.4	1.120			
	11	15.6	63.8	5.250	計算から除外		
	12	14.6	59.1	1.441			
	13	17.4	56.6	1.009	計算から除外		
	14	17.3	56.5	1.383	計算から除外		

(4) 焼成年代の推定

図 10 は広岡公夫・藤澤良祐による地磁気永年変化の一部曲線（広岡・藤澤、1998）とともに、窯跡の床面焼土の磁化方向を示したものであり、3基の窯跡の磁化方向は、1,100～1,300 年間の曲線付近に位置した。年代は最も近い標準曲線上に移動して推定し、その結果は表 11 に示した通りである。

焼成推定年代

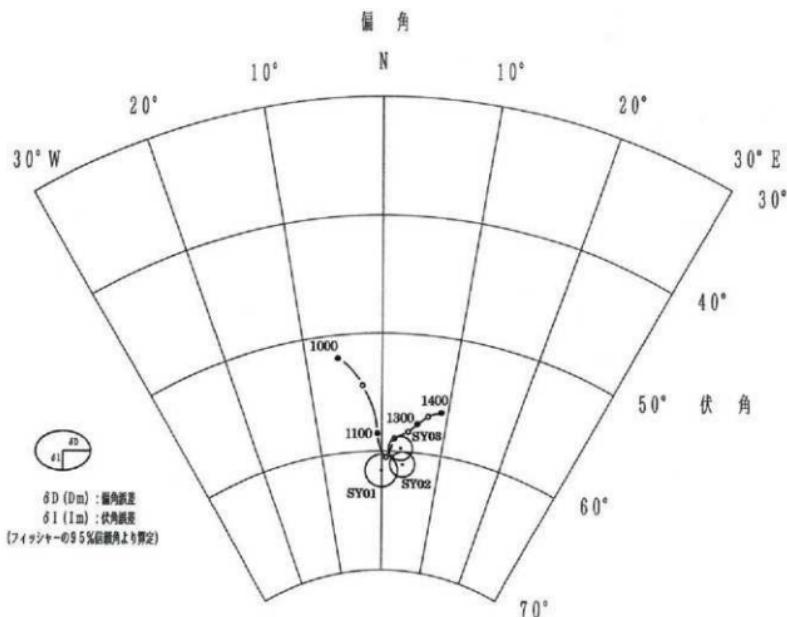


図 12 考古地磁気永年変化曲線

表 11 窯跡焼土の焼成年代推定値

遺構	遺物による年代	残留磁化による推定年代
SY01	13世紀	A.D.1,150 ± 35年
SY02	13世紀	A.D.1,160 ± 35年
SY03	13世紀	A.D.1,190 ± 30年

引用文献

- Fisher, R. A. (1953) Dispersion on a sphere. Proc. Roy. Soc. London. A. 217, 295-305
 広岡公夫 (1977) 考古学地磁気および第四紀古地磁気研究の最近の動向、第四紀研究、15、200-203
 広岡公夫・藤澤良祐 (1998) 東海地方の地磁気永年変化、日本文化財科学会第15回大会研究発表要旨集、20-21
 理科年表 (1993) 国立天文台編、丸善、952P
 Shibuya, H. (1980) Geomagnetic secular variation in Southwest Japan for the past 2,000 years by means of archaeomagnetism. 大阪大学基礎工学部修士論文、54P



Chapter 5

考察とまとめ

1 I-G-2号窯における窯業生産の特徴

第3章ではI-G-2号窯から出土した山茶椀・小皿について形態分類を試みたが、ここでは形態と法量の2点について検討し、それぞれの前後関係を明らかにする。次に窯体ごとの遺物出土状況を比較し、3基の操業状況を検討する。

(1) 形態変化

まず形態に着目すると、三類には次のような特徴を指摘することができる。

① 体部外面

A類・B類とも底部から湾曲して立ち上がるものの、直線的に立ち上がるものの2種類がある。この傾向はA類よりもB類により多く見られる。また立ち上がりが急であり、器高の高いものも見られる。これに対しC類は底部からの立ち上がりが直線的である。

② 口縁端部の調整

A類の口縁端部は大きく肥厚するが、B類・C類は肥厚が小さく、尖る傾向にある。

③ 底部内面・体部内面の境

A類は底部中央の窪みは弱く、底部と体部の境は浅く窪む。これに対しB類は底部中央が強く窪み、底部内面と体部内面の境は滑らかにつながる。さらにC類の底部中央は平滑であり、底部と体部の境は角張ってつながる。

④ 高台の形状

A類・B類では断面形状は低く潰れながらも三角形を保ち、耕穀痕も浅く残る。これに対しC類では断面形状が台形に潰れ、耕穀痕が強く圧着する。

⑤ 底部外面

A類・B類では糸切り痕1類が多数を占めるのに対し、C類では糸切り痕2類が圧倒的になる。

これらの要素を比較すると、まずA・B類とC類の間には②を除き明らかな差異が認められ、形式的变化として捉えることができる。またA類とB類には底部内面の押圧、底部及び体部内面の境に差異を認める能够のもの、共通点が多く見られる。

(2) 法量の分析

表12は山茶椀・小皿の器高・口径・底径・径高指数・口径と底径の比率について形態別に平均値を求めたものである。山茶椀について要素を比較すると、

①器高はA類に較べB類が高くなるが、C類は逆に低くなる。このことは径高指数

体部の立ち上がり

口縁端部

底部・体部内面の境

高台

底部糸切り痕

法量の比較

にも同様の特徴として表れる。
 ②口径は A 類・B 類・C 類の順に狭くなる
 ③底径は A 類・B 類・C 類の順に広がる
 といった特徴を指摘することができる。

表 12 形態別計測平均値

	形 態	器高平均	口径平均	底径平均	径高平均	口径 / 底径
山茶椀	A 類	5.5	14.2	5.7	39.2	2.48
	B 類	5.8	14.0	5.8	41.3	2.44
	C 類	5.2	13.9	6.0	37.6	2.33
小 盆	a 類	1.8	8.0	4.4	23.2	1.79
	b 類	1.9	8.4	5.5	22.1	1.56

また表 13 は口径と器高、口径と底径についてそれぞれ分布を表したものである。三類はほぼ同じ範囲に分布するが、C 類は A 類・B 類にくらべ器高はやや低く、底径はやや高く分布する傾向が見られる。また口径の分布も、A 類・B 類に較べ集中する傾向を示す。これに対して A 類・B 類は分布の重なる部分が大きく、その違いを形式差として捉えるにはわずかである。強いて特徴を挙げるならば、A 類は口径の分布に分散傾向が見られるが、B 類では口径・器高の分布ともに分散傾向が見られる。

以上の検討結果から、A・B 類と C 類の間には器高の減少、底径の増加に見られるような法量の変化を見出すことができるが、A 類・B 類の間における法量の変化はごくわずかであり、同一形式内のわずかな変化として捉えることができる。なお小皿については、a 類に対し b 類は口径・底径ともに広くなる。

(3) 形態の前後関係と操業段階

形態の新旧

以上の検討結果をもとに山茶椀の形態について前後関係を検討すると、まず C 類は A 類・B 類より器高・口径が小型化すること、形態面でも体部の直線化が認められることから、A 類・B 類が C 類より先行することは明らかである。次に問題となるのは、A 類及び B 類の前後関係である。法量から見ると A 類に対して B 類は器高が高く、口径が狭いことが挙げられる。形態面でも底部内面と体部内面の境や口縁端部の整形に省力化の傾向が見られることから、A 類が B 類に先行すると考えられる。ただし腰部に直線的なものと張りを持つものが双方に見られるなど、同一形式内での変化として捉えることが可能である。藤沢良祐氏による尾張型山茶椀の編年（藤澤、1994）をもとに年代観を与えるならば、A 類・B 類は第 6 型式、C 類は第 7 型式に相当すると考えられる。絶対年代としては 13 世紀の前葉から中葉に位置づけられる。また、小皿 a 類は山茶椀 A 類・B 類、b 類は C 類と対応関係にあることが表 9 から指摘できる。

底径の変化

なおここで、底径の変化について補足を加える。C 類は A 類・B 類に較べ口径・器高が小型となるが、底径はむしろ大きくなる。このことは小皿の底径についても同様の指摘ができる。b 類は個体数が少ないものの、a 類に較べ平均 1cm 程度大きく、山茶椀 C 類とほぼ同じ大きさである。底部外面の糸切り痕も 2 類が大勢を占めることから、小皿 a 類と b

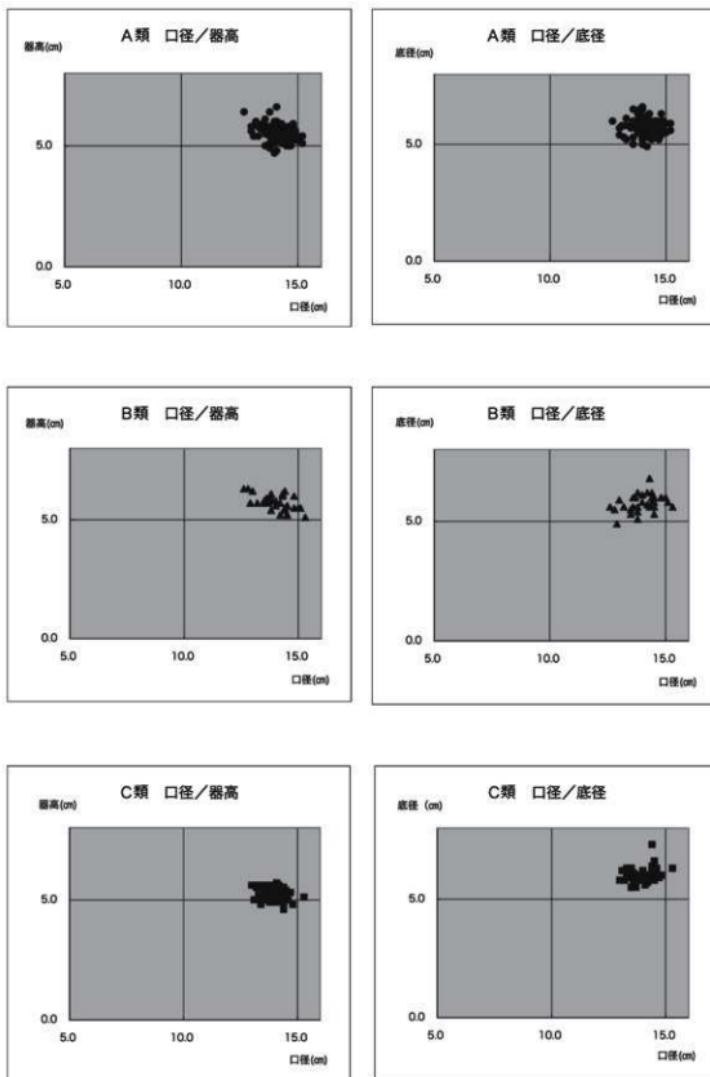


表 13 山茶橢形態別法量分布表

類の間には、山茶椀 A・B 類と C 類と同様の変化が起きたと考えられる。

窯体別出土状況

次に窯の操業順序を推定するために窯体別の出土状況を再度検討すると、SY01 では B 類、SY02 では A 類と B 類、SY03 と C 類の対応関係が考えられる。山茶椀の形態が A 類から B 類へ変化すること、また SY02 の焚口が SY01 よりやや低い位置にあることを考えると、SY02 の操業が SY01 の操業に先行した可能性が高い。また SY03 では C 類を多く焼成している点、焚口の標高が他の 2 基よりも高い点を考えると、3 基のうちでは最も新しいことになる。したがって 3 基の窯は SY02・SY01・SY03 の順に操業したと考えられる。ただし 3 基の窯で複数の形態が見られることを勘案すると、窯が継続的に操業したと考えることができる。

2 猿投窯における I-G-2 号窯の位置づけ

猿投窯岩崎地区

I-G-2 号窯は猿投窯岩崎地区に位置づけられており、三ヶ峯丘陵周辺で確認された窯跡を含めた検討が必要になる。三ヶ峯丘陵では現在 14 基の古窯跡が確認されている。このうち NN-32 号窯式期から O-10 号窯式期に比定される三ヶ峯 11 号窯、IG-78 号窯式期に比定される三ヶ峯 3 号窯を除き、いわゆる山茶椀・小皿を焼成した窯である。このうち昭和 47 年に三ヶ峯 1 号窯・2 号窯（宮石、1974 年）、平成 4 年に三ヶ峯 8 号窯、平成 10 年に三ヶ峯 9 号窯・10 号窯・12 号窯（七原、1999 年）についてそれぞれ発掘調査が行われている。また一ノ井 1 号窯については、平成 5 年に範囲確認調査が行われている。ただし窯体が確認されたのは燃焼室から焼成室が残存した三ヶ峯 1 号窯・2 号窯と、焼成室上部の床面がわずかに残存した 9 号窯の 3 基であり、残る 3 基は窯体が未確認か、あるいは滅失している。したがって窯体構造から比較できる資料に乏しく、出土遺物の検討に留まる。なお検討資料として、丘陵の末端に位置する堀越古窯の採集資料を加えることとする。

周辺古窯の編年的位置づけ

比較的最近調査された三ヶ峯 9・10・12 号窯および堀越古窯では、山茶椀が藤澤編年第 6 型式から第 7 型式、三ヶ峯 8 号窯は第 6 型式に位置づけられている。また三ヶ峯 1・2 号窯は編年確立以前の調査ではあるが、1 号窯が 13 世紀前葉から中葉、2 号窯が 13 世紀後葉に位置づけられており（『長久手町史本文編』）、他と同じ形式に属すると考えられる。さらに遺物の組成も三ヶ峯 1・2 号窯では蓋・小碗・陶丸が出土しているものの、全体に山茶椀・小皿以外の出土が見られず、猿投窯におけるこの時期の焼成品と一致する。以上のことから、I-G-2 号窯は 13 世紀前半における、三ヶ峯の山茶椀専焼窯の 1 つとして位置づけることができる。

3 まとめ

I-G-2号窯は今回の調査の結果、窯体を3基確認することができた。窯はいずれも中世東海地方では通有の分焰柱を有する密窯であり、北方向の谷に向かい構築されている。残存状況は決して良好とは言えないものの、床面の状況から複数回の補修が考えられ、このうち1基では焼成室壁面及び分焰柱についても補修が施されていた。前庭部・灰層について平面的に確認できたことは限られるが、灰層の分布が調査区北側へ広がる可能性が高い。

焼成された器種は東海地方南部系山茶椀およびセット関係で焼成された小皿が大半を占め、このほか陶丸の焼成も確認された。山茶椀は13世紀前葉から中葉の年代観が与えられる。三ヶ峯丘陵で過去に調査・確認された山茶椀の窯跡もほぼ同時期の焼成とされることがから、猿投窯岩崎地区における生産活動の一環として捉えられる内容である。遺物の変遷は漸進的であり、また1つの窯で複数の形態が見られることから、継続的な操業を想定することができる。

最後に、調査時における反省点について触れておきたい。今回の調査中、県の試掘トレーナーで確認した薄い炭化物層を最近の整地層と誤認し、特にSY01・02の前庭部から灰層の存在が推定できる区域を重機により掘削した。その結果多くの貴重な情報が失われる形となり、遺構検出にも不自由をもたらすこととなつた。今回報告できた事柄はあくまで残された情報をもとに判明した分であり、もとより十全な内容を持つ報告書とは編集者自身考えていない。多くの人々のご叱正が囁かれれば幸いである。

参考文献

- 斎藤 孝正 1988 「中世旗投柵の研究—編年に関する一考察—」
『名古屋大学文学部研究論集 CI 史学 34』
- 藤澤 良祐 1982 「瀬戸古窯跡群 I」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要 I』
1995 「土に生きる「職人」—東海の山茶椀生産者について」
網野善彦・石井進編『中世の風景を読む—3 境界と郷に生きる人々』新人物往来社
- 1994 「山茶椀研究の現状と課題」
『三重県埋蔵文化財センター研究紀要 第3号』
- 松澤 和人 1993 「広久手古窯跡群の出土遺物—瀬戸窯南部系山茶椀第7形式の細分」
『(財)瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要 第1輯』
- 岡本 直久 2004 「狼投・瀬戸窯山茶椀の編年について」
『中世土器・陶器編年研究会記録 東海地方山茶椀研究の現在と課題』科研費・「中世土器・陶器編年研究と流通様相の年代的解明」班
- 富山大学人文学部考古学研究室 1989 「越中上末窯」富山大学考古学研究報告 第3冊
- 服部 郁 1991 「穴田南第6号窯跡」瀬戸市教育委員会
- 伊藤 正人ほか 1998 「大高南地区遺跡発掘調査報告書」名古屋市教育委員会
- 七原 恵史 1999 「三ヶ峯古窯発掘調査報告書—三ヶ峯第9号窯・第10号窯・第12号窯—」三ヶ峯第9号窯・第10号窯・第12号窯発掘調査会
- 長久手町史編纂委員会 1997 「長久手町史 資料編五 考古」
2003 「長久手町史 本文編」
- 山下 峰司 1992 「穴田南古窯跡群IV—第4・5・7窯跡発掘調査報告」
瀬戸市教育委員会
- 池本 正明 2004 「金萩遺跡」愛知県埋蔵文化財センター
- 宮石 宗弘ほか 1974 「愛知県立芸術大学三ヶ峯第1号・第2号古窯発掘調査報告」
『愛知県立芸術大学紀要 No.5』
- 橋崎 彰一 1977 「中世の社会と陶器生産」
『世界陶磁全集 3』小学館

付表



作業風景



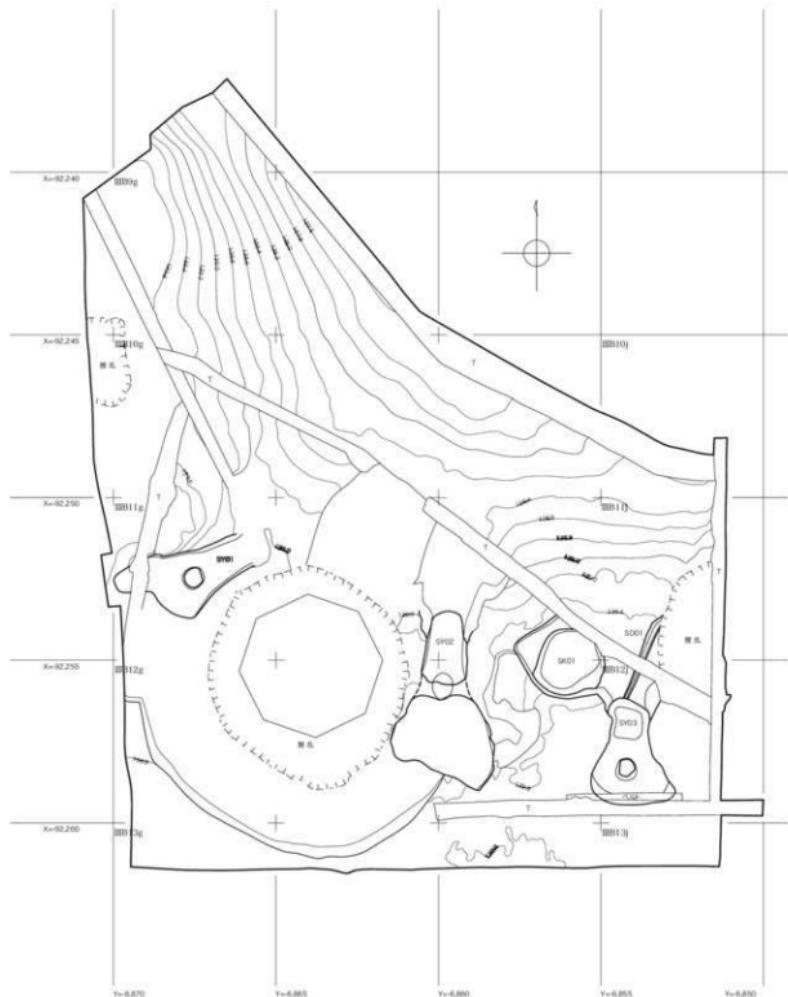
SY02・03 の位置関係



SY03 炭化物



北壁



遺構平面図 (1 : 150)

遺物観察表

図版番号	種類	出土地点			法量				調整等			備考	登録番号			
		器種	分類	グリッド	遺構	地点位置	層高	口径	底径	径高指数	口径/底径	マンセル値	色調	底内面	底外面	
1	4	山茶楕	B類	III B11g	SY01	分塙孔	6.1	13.8	6.2	44.2	2.5	5Y7/1	灰白色	B	1	E-001
2		山茶楕	B類	III B11g	SY01	分塙孔	5.5	14.8	6.0	37.2	2.5	5Y7/1	灰白色	B	1	E-002
3	4	山茶楕	B類	III B11g	SY01	分塙孔	6.2	14.4	6.2	43.1	2.3	5Y7/1	灰白色	B	1	E-003
4	4	山茶楕	B類	III B11g	SY01	分塙孔	5.5	15.0	6.0	36.7	2.5	5Y7/1	灰白色	B	1	E-004
5	4	山茶楕	B類	III B11g	SY01	分塙孔	5.9	13.8	5.4	42.8	2.6	5Y7/1	灰白色	B	1	E-005
6		山茶楕	B類	III B11g	SY01	分塙孔	6.2	13.0	5.9	47.7	2.2	5Y7/1	灰白色	B	1	E-006
7		山茶楕	B類	III B11g	SY01	分塙孔	5.7	13.7	6.0	41.6	2.3	N8/	灰白色	B	1	体部内面に降灰 E-007
8		山茶楕	B類	III B11g	SY01	分塙孔	6.3	12.6	5.6	50.0	2.3	5Y7/1	灰白色	B	1	体部内面に降灰 E-008
9	4	山茶楕	B類	III B11g	SY01	焼成窯	5.8	13.5	5.3	43.0	2.5	5Y7/1	灰白色	B	1	E-009
10	4	山茶楕	B類	III B11g	SY01	焼成窯	6.3	12.8	5.5	49.2	2.3	5Y7/1	灰白色	B	1	E-010
11		山茶楕	B類	III B11g	SY01	焼成窯	5.7	13.5	5.5	42.2	2.5	5Y7/1	灰白色	B	1	E-011
12		山茶楕	B類	III B11g	SY01	焼成窯	6.0	14.8	6.0	40.5	2.5	5Y7/1	灰白色	B	1	E-012
13		山茶楕	B類	III B11g	SY01	焼成窯	5.9	13.6	6.0	43.4	2.3	5Y7/1	灰白色	B	1	E-013
14		山茶楕*	B類	III B11g	SY01	焼成窯	* 14.8	*	*	*	5Y7/1	灰白色	*	*	体部内面に降灰 E-014	
15		山茶楕*	B類	III B11g	SY01	分塙孔	* 13.8	*	*	*	N8/	灰白色	*	*	E-015	
16	4	小皿	a類	III B11g	SY01	焼成窯	1.7	8.0	4.8	21.3	1.7	5Y7/1	灰白色	a	1	内面全面に降灰 E-016
17	4	小皿	a類	III B11g	SY01	焼成窯	2.0	7.9	4.8	23.3	1.6	N8/	灰白色	a	1	E-017
18	4	小皿	a類	III B11g	SY01	焼成窯	1.9	8.0	4.2	23.8	1.9	10Y8/1	灰白色	a	1	E-018
19	小皿	a類	III B11g	SY01	焼成窯	2.0	7.9	4.4	25.3	1.8	7.5Y7/1	灰白色	a	1	内面全面に降灰 E-019	
20	小皿	a類	III B11g	SY01	焼成窯	1.7	8.0	4.6	21.3	1.7	7.5Y7/1	灰白色	a	1	内面全面に降灰 E-020	
21	4	小皿	a類	III B11g	SY01	焼成窯	1.6	7.8	4.2	20.5	1.9	N8/	灰白色	a	1	内面全面に降灰 E-021
22	小皿	a類	III B11g	SY01	焼成窯	1.8	7.8	5.0	23.1	1.6	7.5Y7/1	灰白色	a	2	E-022	
23	4	小皿	a類	III B11g	SY01	焼成窯	2.1	8.1	4.4	25.9	1.8	7.5Y7/1	灰白色	a	1	E-023
24	小皿	a類	III B11g	SY01	焼成窯	1.9	8.3	4.4	22.9	1.9	7.5Y7/1	灰白色	a	1	E-024	
25	小皿	a類	III B11g	SY01	焼成窯	2.1	8.2	4.5	25.6	1.8	N8/	灰白色	a	1	E-025	
26	小皿	a類	III B11g	SY01	焼成窯	1.7	8.3	4.4	20.5	1.9	SY8/1	灰白色	a	1	E-026	
27	小皿	a類	III B11g	SY01	焼成窯	1.7	8.2	5.2	20.7	1.6	5Y7/1	灰白色	a	1	E-027	
28		山茶楕	B類	III B11g	SY01	焼成窯	5.6	14.0	5.8	40.0	2.4	SY8/1	灰白色	B	1	E-028
29	4	山茶楕	B類	III B11g	SY01	焼成窯	6.0	14.3	6.8	42.0	2.1	5Y7/1	灰白色	B	1	E-029
30		山茶楕	B類	III B11g	SY01	焼成窯	5.1	15.3	5.6	33.3	2.7	7.5Y7/1	灰白色	B	1	E-030
31		山茶楕	B類	III B11g	SY01	焼成窯	* 13.9	*	*	*	5Y7/1	灰白色	B	1	E-031	
32	4	山茶楕	B類	III B11g	SY01	焼成窯	5.7	14.2	5.7	40.1	2.5	5Y7/1	灰白色	B	1	E-032
33		山茶楕	B類	III B11g	SY01	焼成窯	5.5	15.1	5.8	36.4	2.6	7.5Y7/1	灰白色	B	1	E-033
34	4	山茶楕	B類	III B11g	SY01	焼成窯	5.8	13.8	5.1	42.0	2.7	SY6/1	灰色	B	1	体部内面に降灰 E-034
35		山茶楕	B類	III B11g	SY01	焼成窯	* 14.2	*	*	*	5Y7/1	灰白色	B	1	E-035	
36		山茶楕*	B類	III B11g	SY01	焼成窯	5.5	13.8	5.5	39.9	2.5	SY6/1	灰色	*	*	E-036
37		山茶楕*	B類	III B11g	SY01	焼成窯	5.5	15.8	6.2	34.8	2.5	5Y7/1	灰白色	*	*	E-037
38		山茶楕	B類	III B11g	SY01	焼成窯	6.1	14.3	5.6	42.7	2.6	5Y7/1	灰白色	B	1	E-038
39	4	山茶楕	B類	III B11g	SY01	焼成窯	5.7	12.9	4.9	44.2	2.6	7.5Y7/1	灰白色	B	1	体部内面に降灰 E-039
40		山茶楕	B類	III B11g	SY01	焼成窯	5.5	14.4	6.0	38.2	2.4	10Y7/1	灰白色	B	1	E-040
41		山茶楕	B類	III B11g	SY01	焼成窯	5.6	14.5	5.6	38.6	2.6	10Y8/1	灰白色	B	1	E-041
42		山茶楕*	B類	III B11g	SY01	焼成窯	* 14.4	*	*	*	5Y7/1	灰白色	*	*	E-042	
43		山茶楕*	B類	III B11g	SY01	焼成窯	* 14.5	*	*	*	SY8/1	灰白色	*	*	体部内面に降灰 E-043	
44		山茶楕	B類	III B11g	SY01	焼成窯	* 6.0	*	*	*	SY6/1	灰色	B	1	体部内面に降灰 E-044	
45		山茶楕	B類	III B11g	SY01	焼成窯	* 5.6	*	*	*	10Y7/1	灰白色	B	1	体部内面に降灰 E-045	
46		山茶楕	B類	III B11g	SY01	焼成窯	* 5.6	*	*	*	7.5Y7/1	灰白色	B	1	E-046	
47		山茶楕	B類	III B11g	SY01	焼成窯	* 5.8	*	*	*	10Y7/1	灰白色	B	1	E-047	
48		山茶楕*	B類	III B11g	SY01	焼成窯	5.6	13.7	5.6	40.9	2.4	SY8/1	灰白色	*	*	E-048
49	小皿	a類	III B11g	SY01	焼成窯	2.1	8.2	4.9	25.6	1.7	5Y7/1	灰白色	a	1	体部内面に降灰 E-049	
50	小皿	a類	III B11g	SY01	焼成窯	1.9	7.8	4.6	24.4	1.7	5Y7/1	灰白色	a	1	内面全面に降灰 E-050	
51	4	小皿	a類	III B11g	SY01	焼成窯	1.7	8.5	4.9	20.0	1.7	5Y7/1	灰白色	a	1	内面全面に降灰 E-051
52	小皿	a類	III B11g	SY01	焼成窯	1.7	7.9	4.7	21.5	1.7	5Y7/1	灰白色	a	1	E-052	
53	小皿	a類	III B11g	SY01	焼成窯	2.0	8.3	5.2	24.1	1.6	10Y7/1	灰白色	a	1	E-053	
54	4	小皿	a類	III B11g	SY01	焼成窯	2.2	7.8	4.4	28.2	1.8	7.5Y7/1	灰白色	a	1	E-054
55	小皿	a類	III B11g	SY01	焼成窯	2.0	8.0	4.8	25.0	1.7	10Y7/1	灰白色	a	1	E-055	
56	4	小皿	a類	III B11g	SY01	焼成窯	1.9	7.9	5.1	24.1	1.5	10Y7/1	灰白色	a	1	E-056
57	小皿	a類	III B11g	SY01	焼成窯	1.8	8.4	4.6	21.4	1.8	5Y7/1	灰白色	a	1	E-057	
58	小皿	a類	III B11g	SY01	焼成窯	1.8	7.8	4.8	23.1	1.6	5Y7/1	灰白色	a	1	E-058	
59	5	山茶楕	A類	III B12i	SY02	焼成窯	5.8	14.1	5.4	41.1	2.6	10Y7/1	灰白色	A	1	内面全面に降灰 E-059

図版番号	種類	出土地点	法量						調整等			備考	空欄番号					
			割種	分類	グリッド	遺構	地點層位	器高	口径	底径	径高/口径 底径	マンセル値	色調	底内面	底外面			
実測図 写真図																		
60	5	山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	焼成室	5.4	14.4	5.4	37.5	2.7	10Y7/1	灰白色	A	1	体部内面に降灰、 外画に焼台痕	E-060
61		山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	焼成室	5.6	14.8	6.0	37.8	2.5	10Y6/1	灰白色	A	1		E-061
62		山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	焼成室	6.0	14.0	5.2	42.9	2.7	10Y7/1	灰白色	A	2	体部内面に降灰、 外画に焼台痕	E-062
63		山茶輪	A類	III	B1.2b	SY02	焼成室	5.9	14.1	6.0	41.8	2.4	5Y8/1	灰白色	A	1	外画に焼台痕	E-063
64		山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	焼成室	5.5	13.6	5.8	40.4	2.3	10Y7/1	灰白色	A	1		E-064
65		山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	焼成室	5.7	14.0	5.5	40.7	2.5	7.5Y7/1	灰白色	A	1		E-065
66		山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	焼成室	5.2	13.9	6.2	37.4	2.2	5Y6/1	灰色	A	1	体部内面に降灰	E-066
67	5	山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	焼成室	5.4	14.8	6.0	36.5	2.5	5Y7/1	灰白色	A	1		E-067
68		山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	焼成室	5.3	14.5	5.6	36.6	2.6	5Y7/1	灰白色	A	1	体部内面に降灰	E-068
69		山茶輪	A類	III	B1.2b	SY02	焼成室	5.4	14.7	5.2	36.7	2.8	5Y7/1	灰白色	A	1	体部内面に降灰	E-069
70		山茶輪	A類	III	B1.2b	SY02	焼成室	5.5	14.6	5.8	37.7	2.5	5Y7/1	灰白色	A	2	外画に焼台痕	E-070
71	5	山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	焼成室	5.7	14.2	5.5	40.1	2.6	5Y7/1	灰白色	A	1		E-071
72		山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	焼成室	5.5	14.9	5.6	36.9	2.7	5Y7/1	灰白色	A	1	外画に焼台痕	E-072
73		山茶輪	A類	III	B1.2b	SY02	焼成室	5.3	14.4	5.5	36.8	2.6	5Y7/1	灰白色	A	1	体部内面に降灰、 外画に焼台痕	E-073
74		山茶輪	A類	III	B1.2b	SY02	焼成室	5.5	14.5	5.5	37.9	2.6	5Y7/1	灰白色	A	1		E-074
75		山茶輪	A類	III	B1.2b	SY02	焼成室	5.3	14.4	5.5	36.8	2.6	7.5Y7/1	灰白色	A	1		E-075
76		山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	焼成室	5.6	14.1	5.5	39.7	2.6	7.5Y7/1	灰白色	A	1		E-076
77		山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	焼成室	5.9	14.0	5.8	42.1	2.4	5Y7/1	灰白色	A	1		E-077
78		山茶輪	A類	III	B1.2b	SY02	焼成室	5.7	14.0	5.3	40.7	2.6	5Y7/1	灰白色	A	1	体部内面に降灰、 外画に焼台痕	E-078
79		山茶輪	*	III	B1.2i	SY02	焼成室	6.2	13.2	5.7	47.0	2.3	5Y7/1	灰白色	*	*		E-079
80		山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	焼成室	5.2	15.0	5.5	34.7	2.7	5Y7/1	灰白色	A	1		E-080
81		山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	焼成室	5.5	14.6	5.9	37.7	2.5	5Y7/1	灰白色	A	1	外画に焼台痕	E-081
82		山茶輪	A類	III	B1.2b	SY02	焼成室	5.2	14.2	5.5	36.6	2.6	7.5Y6/1	灰色	A	1		E-082
83		山茶輪	A類	III	B1.2b	SY02	焼成室	5.9	14.2	5.8	41.5	2.4	7.5Y7/1	灰白色	A	1	体部内面に降灰	E-083
84		山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	焼成室	5.4	14.7	5.5	36.3	2.7	5Y7/1	灰白色	A	1	外画に焼台痕	E-084
85	5	小皿	A類	III	B1.2i	SY02	焼成室	1.9	7.8	3.9	24.4	2.0	5Y7/1	灰白色	a	1		E-085
86	5	小皿	A類	III	B1.2i	SY02	焼成室	2.1	7.7	4.4	27.3	1.8	5Y7/1	灰白色	a	1		E-086
87		山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	燃焼室	5.7	14.0	5.3	40.7	2.6	5Y7/1	灰白色	A	1		E-087
88	5	山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	燃焼室	6.0	14.1	5.6	42.6	2.5	5Y7/1	灰白色	A	1		E-088
89		山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	燃焼室	5.0	14.6	5.8	34.2	2.5	5Y7/1	灰白色	A	1	体部内面に降灰、 外画に焼台痕	E-089
90	5	山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	燃焼室	6.0	14.1	5.5	42.6	2.6	5Y7/1	灰白色	A	1		E-090
91		山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	燃焼室	5.7	13.7	6.0	41.6	2.3	5Y7/1	灰白色	A	2		E-091
92		山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	燃焼室	5.5	14.0	5.0	39.3	2.8	5Y7/1	灰白色	A	2	外画に焼台痕	E-092
93		山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	燃焼室	5.7	14.3	6.0	39.9	2.4	5Y6/1	灰色	A	1	体部内面に降灰	E-093
94		山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	燃焼室	5.4	14.1	6.0	38.3	2.4	5Y6/1	灰色	A	1	体部内面に降灰	E-094
95		山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	燃焼室	5.3	14.3	5.8	37.1	2.5	5Y6/1	灰色	A	1		E-095
96		山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	燃焼室	5.7	14.0	6.0	40.7	2.3	5Y6/1	灰色	A	1		E-096
97		山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	燃焼室	5.4	14.4	5.4	39.6	2.7	5Y7/1	灰白色	A	1		E-097
98		山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	燃焼室	5.4	14.2	5.7	38.0	2.5	5Y6/1	灰色	A	1		E-098
99		山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	燃焼室	5.4	14.4	5.4	37.5	2.7	5Y7/1	灰白色	A	1		E-099
100		山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	燃焼室	5.1	13.9	6.0	36.7	2.3	5Y7/1	灰白色	A	1		E-100
101	5	山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	燃焼室	5.6	14.9	6.0	37.6	2.5	5Y6/1	灰色	A	1		E-101
102		山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	燃焼室	5.4	14.3	5.8	37.8	2.3	5Y6/1	灰色	A	1	体部内面に降灰	E-102
103		山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	燃焼室	5.6	14.1	5.5	39.7	2.6	N7/	灰白色	A	1		E-103
104		山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	燃焼室	5.4	14.5	5.6	37.2	2.6	5Y8/1	灰白色	A	1		E-104
105		山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	燃焼室	5.7	14.4	5.6	39.6	2.6	N7/	灰白色	A	1		E-105
106		山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	燃焼室	5.9	14.8	5.9	39.9	2.5	5Y8/1	灰白色	A	1		E-106
107		山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	燃焼室	5.4	14.3	6.3	37.8	2.3	5Y8/1	灰白色	A	2		E-107
108		山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	燃焼室	5.9	14.2	5.6	41.5	2.5	5Y8/1	灰白色	A	1	外画に焼台痕	E-108
109		山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	燃焼室	5.7	14.6	5.9	39.0	2.5	N6/	灰色	A	1	体部内面に降灰	E-109
110		山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	燃焼室	5.8	14.8	5.8	39.2	2.6	N6/	灰色	A	1		E-110
111		山茶輪	A類	III	B1.1i	SY02	燃焼室	5.2	14.6	6.0	35.6	2.4	5Y7/1	灰白色	A	1		E-111
112		山茶輪	A類	III	B1.1i	SY02	燃焼室	5.8	14.2	5.7	40.8	2.5	7.5Y7/1	灰白色	A	1		E-112
113		山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	燃焼室	5.3	14.3	5.4	37.1	2.6	7.5Y7/1	灰白色	A	1		E-113
114		山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	燃焼室	5.6	14.0	5.8	40.0	2.4	7.5Y7/1	灰白色	A	1	外画に焼台痕	E-114
115		山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	燃焼室	6.0	13.2	5.8	45.5	2.3	5Y8/1	灰白色	A	1	外画に焼台痕	E-115
116		山茶輪	A類	III	B1.2i	SY02	燃焼室	5.5	13.9	6.2	39.6	2.2	5Y6/1	灰色	A	1	体部内面に降灰	E-116

図版番号	種類	出土地点			法量			調整等			備考	登録番号		
		分類	グリッド	遺構	地點位置	留高	口径	底深	径高 指数	口徑 割合	マンセヒ 割合	色調	底内面 底外側	
美濃國 写真 図版	器種													
117	山茶碗	A類	III B12i	SY02	燃焼室	5.4	14.9	5.8	36.2	2.6	7.5Y8/1	灰白色	A 1	E-117
118	山茶碗	A類	III B12i	SY02	燃焼室	5.5	13.9	6.2	39.6	2.2	5Y6/1	灰色	A 1	E-118
119	山茶碗	A類	III B12i	SY02	燃焼室	5.6	14.2	6.2	39.4	2.3	7.5Y6/1	灰色	A 1	体部内面に隕灰
120	5 小皿	a類	III B12i	SY02	燃焼室	2.1	7.8	4.5	26.9	1.7	5Y7/1	灰白色	a 1	内部全面に隕灰
121	小皿	a類	III B12i	SY02	燃焼室	1.9	8.3	4.1	22.9	2.0	5Y7/1	灰白色	a 1	E-120
122	5 小皿	a類	III B12i	SY02	燃焼室	1.6	7.3	4.2	21.9	1.7	5.5Y7/1	灰白色	a 1	E-121
123	小皿	a類	III B12i	SY02	燃焼室	2.0	8.5	4.6	23.5	1.8	5Y7/1	灰白色	a 1	内部全面に隕灰
124	小皿	a類	III B12i	SY02	燃焼室	1.8	7.6	4.6	23.7	1.7	5Y7/1	灰白色	a 1	E-122
125	小皿	a類	III B12i	SY02	燃焼室	1.9	7.6	4.2	25.0	1.8	5Y7/1	灰白色	a 1	E-123
126	5 小皿	a類	III B12i	SY02	燃焼室	1.9	8.0	4.5	23.8	1.8	5Y7/1	灰白色	a 1	E-124
127	小皿	a類	III B12i	SY02	燃焼室	1.9	8.6	4.2	22.1	2.0	5Y7/1	灰白色	a 1	E-125
128	小皿	a類	III B12i	SY02	燃焼室	2.0	8.1	4.2	24.7	1.9	5Y7/1	灰白色	a 1	内部全面に隕灰
129	5 小皿	a類	III B12i	SY02	燃焼室	1.9	8.1	4.8	23.5	1.7	5Y7/1	灰白色	a 1	E-126
130	小皿	a類	III B12i	SY02	燃焼室	1.7	7.9	4.5	21.5	1.8	5Y7/1	灰白色	a 1	E-127
131	小皿	a類	III B12i	SY02	燃焼室	2.0	8.6	4.2	23.3	2.0	5Y7/1	灰白色	a 1	E-128
132	小皿	a類	III B12i	SY02	燃焼室	1.7	7.5	4.2	22.7	1.8	5Y7/1	灰白色	a 1	E-129
133	小皿	a類	III B11i	SY02	燃焼室	1.8	7.9	4.8	22.8	1.6	5Y7/1	灰白色	a 1	内部全面に隕灰
134	小皿	a類	III B12i	SY02	燃焼室	1.7	8.0	4.0	21.3	2.0	5Y7/1	灰白色	a 1	E-130
135	5 小皿	a類	III B12i	SY02	燃焼室	1.6	8.0	4.0	20.0	2.0	5Y7/1	灰白色	a 1	内部全面に隕灰
136	山茶碗	A類	III B12i	SY02	焼成室	5.1	15.2	5.6	33.6	2.7	5Y7/1	灰白色	A 1	E-131
137	山茶碗	A類	III B12i	SY02	焼成室	5.4	13.9	6.0	38.8	2.3	5Y7/1	灰白色	A 1	E-132
138	山茶碗	A類	III B11i	SY02	焼成室	5.7	13.6	6.0	41.9	2.3	10Y7/1	灰白色	A 1	E-133
139	山茶碗	A類	III B11i	SY02	焼成室	5.8	13.6	5.3	42.6	2.6	7.5Y7/1	灰白色	A 1	E-134
140	5 山茶碗	A類	III B12b	SY02	焼成室	5.5	14.0	5.5	39.3	2.5	10Y7/1	灰白色	A 1	E-135
141	山茶碗	A類	III B12i	SY02	焼成室	5.9	14.3	5.7	41.3	2.5	5Y8/1	灰白色	A 1	外間に燒台痕
142	山茶碗	A類	III B12i	SY02	焼成室	5.0	14.5	6.0	34.5	2.4	5Y8/1	灰白色	A 1	体部内面に隕灰
143	山茶碗	A類	III B11i	SY02	焼成室	5.9	13.2	5.3	44.7	2.5	N7/	灰白色	A 1	内部全面に隕灰
144	山茶碗	A類	III B11i	SY02	焼成室	5.6	14.6	5.7	38.4	2.6	N7/	灰白色	A 1	E-144
145	山茶碗	A類	III B11i	SY02	焼成室	5.6	14.3	5.8	39.2	2.5	5Y7/1	灰白色	A 1	E-145
146	山茶碗	A類	III B12b	SY02	焼成室	5.9	14.0	6.5	42.1	2.2	5Y8/1	灰白色	A 1	E-146
147	山茶碗	A類	III B12b	SY02	焼成室	5.3	14.8	6.0	35.8	2.5	5Y7/1	灰白色	A 2	体部内面に隕灰
148	山茶碗	A類	III B11i	SY02	焼成室	5.6	14.4	5.8	38.9	2.5	5Y7/1	灰白色	A 1	E-147
149	山茶碗	A類	III B12b	SY02	焼成室	5.8	14.2	5.8	40.8	2.4	5Y8/1	灰白色	A 1	外間に燒台痕
150	山茶碗	A類	III B12b	SY02	焼成室	5.1	14.7	5.4	34.7	2.7	5Y7/1	灰白色	A 1	体部内面に隕灰
151	山茶碗	A類	III B12b	SY02	焼成室	5.6	14.0	5.0	40.0	2.8	5Y7/1	灰白色	A 1	E-151
152	山茶碗	A類	III B12i	SY02	焼成室	5.4	14.4	5.2	37.5	2.8	5Y8/1	灰白色	A 1	体部内面に隕灰
153	山茶碗	A類	III B11i	SY02	焼成室	4.9	13.8	5.7	35.5	2.4	5Y7/1	灰白色	A 1	体部内面に隕灰
154	山茶碗	A類	III B12b	SY02	焼成室	* 13.8	*	*	*	5Y6/1	灰色	A 1	体部内面に隕灰	
155	5 山茶碗	A類	III B12i	SY02	焼成室	5.6	14.2	5.3	39.4	2.7	10Y6/1	灰色	A 1	体部内面に隕灰
156	山茶碗	A類	III B12i	SY02	焼成室	6.1	13.6	5.0	44.9	2.7	5Y7/1	灰白色	A 1	外間に燒台痕
157	山茶碗	A類	III B12i	SY02	焼成室	5.1	14.3	5.7	35.7	2.5	5Y8/1	灰白色	A 1	E-157
158	山茶碗	A類	III B12i	SY02	焼成室	5.4	14.8	6.3	36.5	2.3	5Y8/1	灰白色	A 1	E-158
159	山茶碗	A類	III B11i	SY02	焼成室	5.5	13.8	5.6	39.9	2.5	10Y6/1	灰色	A 1	E-159
160	山茶碗	A類	III B12i	SY02	焼成室	5.4	15.2	5.9	35.5	2.6	7.5Y7/1	灰白色	A 1	体部内面に隕灰
161	5 山茶碗	A類	III B12i	SY02	焼成室	5.5	13.7	5.7	40.1	2.4	5Y7/1	灰白色	A 1	体部内面に隕灰
162	山茶碗	A類	III B11i	SY02	焼成室	5.5	14.1	5.9	39.0	2.4	7.5Y6/1	灰色	A 1	E-162
163	山茶碗	A類	III B12i	SY02	焼成室	5.8	13.9	5.7	41.7	2.4	7.5Y7/1	灰白色	A 1	E-163
164	山茶碗	A類	III B12i	SY02	焼成室	5.4	14.5	5.7	37.2	2.5	10Y6/1	灰色	A 1	E-164
165	山茶碗	A類	III B11i	SY02	焼成室	5.5	14.2	6.0	38.7	2.4	10Y7/1	灰白色	A 1	E-165
166	山茶碗	A類	III B11i	SY02	焼成室	5.8	14.2	5.8	40.8	2.4	10Y6/1	灰色	A 1	E-166
167	山茶碗	A類	III B11i	SY02	焼成室	5.5	14.2	4.9	38.7	2.9	10Y7/1	灰白色	A 1	体部内面に隕灰
168	山茶碗	A類	III B11i	SY02	焼成室	5.8	13.0	5.4	44.6	2.4	10Y7/1	灰白色	A 1	体部内面と底部内面一部に隕灰
169	山茶碗	A類	III B11i	SY02	焼成室	5.8	14.6	5.6	39.7	2.6	7.5Y7/1	灰白色	A 1	E-168
170	山茶碗	A類	III B11i	SY02	焼成室	5.7	14.5	5.5	39.3	2.6	10Y7/1	灰白色	A 1	E-169
171	5 小皿	a類	III B12i	SY02	焼成室	1.8	8.4	4.2	21.4	2.0	5Y6/1	灰色	a 1	E-170
172	小皿	a類	III B12i	SY02	焼成室	1.7	7.4	4.2	23.0	1.8	5Y6/1	灰色	a 1	E-171
173	6 山茶碗	C類	III B12i	SY03	燃焼室	5.5	14.4	6.0	38.2	2.4	7.5Y6/1	灰色	C 2	E-172
174	6 山茶碗	C類	III B12i	SY03	燃焼室	5.0	14.5	5.8	34.5	2.5	10Y7/1	灰白色	C 2	E-173
175	山茶碗	C類	III B12i	SY03	燃焼室	4.9	14.0	6.2	35.0	2.3	7.5Y7/1	灰白色	C 2	外間に燒台痕
176	山茶碗	C類	III B12i	SY03	燃焼室	5.4	14.1	5.6	38.3	2.5	10Y7/1	灰白色	C 2	E-174

図版番号	種類	出土地点		法 星				調整等			備考	登録番号					
		実測圖 写真 図版	留種 分類	グリッド	遺構	地點層位	層高	口徑	底径	径高 指数	口周 底周	マンセル値	色調	底内面 底外面			
177	山茶梅	C期	III B12j	SY03	燃焼室	5.3	13.7	5.8	38.7	2.4	5Y7/1	灰白色	C	2	体部内面上半のみ 降灰	E-177	
178	山茶梅	A期	III B12j	SY03	燃焼室	5.2	13.9	6.5	37.4	2.1	7.5Y7/1	灰白色	A	2	体部内面に降灰	E-178	
179	山茶梅	C期	III B12j	SY03	燃焼室	5.6	13.8	5.9	40.6	2.3	5Y8/1	灰白色	C	2		E-179	
180	山茶梅	C期	III B12j	SY03	燃焼室	5.3	13.7	6.0	38.7	2.3	5Y7/1	灰白色	C	2	体部内面に降灰、 外面上部に燒台痕	E-180	
181	山茶梅	C期	III B12j	SY03	燃焼室	5.5	13.9	5.8	39.6	2.4	7.5Y7/1	灰白色	C	2	体部内面上半のみ 降灰	E-181	
182	山茶梅	C期	III B12j	SY03	燃焼室	5.2	13.9	6.0	37.4	2.3	7.5Y7/1	灰白色	C	2	外面上に燒台痕	E-182	
183	山茶梅	C期	III B12j	SY03	燃焼室	5.1	15.3	6.3	33.3	2.4	5Y7/1	灰白色	C	2	体部内面上半のみ 降灰	E-183	
184	山茶梅	C期	III B12j	SY03	燃焼室	5.5	14.4	6.0	38.2	2.4	5Y7/1	灰白色	C	2		E-184	
185	山茶梅	C期	III B12j	SY03	燃焼室	4.9	14.4	6.4	34.0	2.3	7.5Y6/1	灰色	C	2		E-185	
186	山茶梅	C期	III B12j	SY03	燃焼室	5.7	14.1	5.9	40.4	2.4	5Y6/1	灰色	C	2		E-186	
187	山茶梅	C期	III B12j	SY03	燃焼室	5.1	14.5	6.6	35.2	2.2	5Y6/1	灰色	C	2		E-187	
188	6	山茶梅	C期	III B12j	SY03	燃焼室	5.5	13.5	5.5	40.7	2.5	5Y7/1	灰白色	C	2	体部内面上半のみ 降灰	E-188
189	山茶梅	C期	III B12j	SY03	燃焼室	4.9	13.9	6.0	35.3	2.3	5Y7/1	灰白色	C	2		E-189	
190	山茶梅	C期	III B12j	SY03	燃焼室	5.6	14.2	5.8	39.4	2.4	5Y7/1	灰白色	C	2		E-190	
191	山茶梅	C期	III B12j	SY03	燃焼室	4.9	13.8	6.0	35.5	2.3	5Y7/1	灰白色	C	2	外面上に燒台痕	E-191	
192	山茶梅	D2	III B12j	SY03	燃焼室	4.8	14.4	6.0	33.3	2.4	5Y7/1	灰白色	D	2	体部内面に降灰、 外面上に燒台痕	E-192	
193	山茶梅	*	III B12j	SY03	燃焼室	5.7	13.0	5.6	43.8	2.3	7.5Y7/1	灰白色	*	*	体部内面に降灰、 外面上に燒台痕	E-193	
194	山茶梅	A期	III B12j	SY03	燃焼室	5.2	14.6	5.7	35.6	2.6	5Y7/1	灰白色	A	2		E-194	
195	山茶梅	*	III B12j	SY03	燃焼室	4.4	13.7	6.9	32.1	2.0	7.5Y7/1	灰白色	*	*	外面上に燒台痕	E-195	
196	山茶梅	A期	III B12j	SY03	燃焼室	4.8	14.1	6.0	34.0	2.4	7.5Y7/1	灰白色	A	2	外面上に燒台痕	E-196	
197	山茶梅	C期	III B12j	SY03	燃焼室	5.3	13.6	5.9	39.0	2.3	7.5Y7/1	灰白色	C	2		E-197	
198	山茶梅	*	III B12j	SY03	燃焼室	5.3	13.5	6.6	39.3	2.0	7.5Y8/1	灰白色	*	*	体部内面に降灰	E-198	
199	山茶梅	A期	III B12j	SY03	燃焼室	5.8	13.3	6.1	43.6	2.2	7.5Y7/1	灰白色	A	2	体部内面に降灰	E-199	
200	山茶梅	A期	III B12j	SY03	燃焼室	5.4	13.1	5.8	41.2	2.3	7.5Y7/1	灰白色	A	2	外面上に燒台痕	E-200	
201	山茶梅	*	III B12j	SY03	燃焼室	* 14.6	* *	* *	* *	* *	7.5Y7/1	灰白色	*	*		E-201	
202	山茶梅	*	III B12j	SY03	燃焼室	* 14.6	* *	* *	* *	* *	2.5Y8/1	灰白色	*	*	体部内面に降灰	E-202	
203	山茶梅	*	III B12j	SY03	燃焼室	* 14.5	* *	* *	* *	* *	5Y7/1	灰白色	*	*		E-203	
204	山茶梅	C期	III B12j	SY03	燃焼室	*	*	6.3	*	*	5Y7/1	灰白色	C	2	体部内面に降灰	E-204	
205	山茶梅	C期	III B12j	SY03	燃焼室	*	*	6.0	*	*	5Y7/1	灰白色	C	2		E-205	
206	山茶梅	C期	III B12j	SY03	燃焼室	*	*	5.7	*	*	5Y8/1	灰白色	C	2		E-206	
207	山茶梅	C期	III B12j	SY03	燃焼室	*	*	5.7	*	*	5Y7/1	灰白色	C	2	体部内面に降灰	E-207	
208	6	小皿	b期	III B12j	SY03	燃焼室	1.8	8.5	5.4	21.2	1.6	5Y7/1	灰白色	b	2		E-208
209	6	小皿	b期	III B12j	SY03	燃焼室	2.1	8.3	5.2	25.3	1.6	7.5Y7/1	灰白色	b	2		E-209
210	6	小皿	b期	III B12j	SY03	燃焼室	1.8	8.3	5.9	21.7	1.4	7.5Y7/1	灰白色	b	2	内面全面に降灰	E-210
211	小皿	*	III B12j	SY03	分沁孔	1.4	7.6	4.7	18.4	1.6	7.5Y7/1	灰白色	*	*		E-211	
212	小皿	*	III B12j	SY03	分沁孔	1.3	8.2	6.0	15.9	1.4	7.5Y7/1	灰白色	*	*		E-212	
213	山茶梅	C期	III B12j	SY03	燃焼室	5.1	13.4	6.0	38.1	2.2	7.5Y7/1	灰白色	C	2	外面上に燒台痕	E-213	
214	6	山茶梅	C期	III B12j	SY03	燃焼室	5.3	13.6	5.6	39.0	2.4	7.5Y7/1	灰白色	C	2	体部内面上半のみ 降灰	E-214
215	山茶梅	C期	III B12j	SY03	燃焼室	5.6	13.6	6.0	41.2	2.3	5Y7/1	灰白色	C	2		E-215	
216	6	山茶梅	C期	III B12j	SY03	燃焼室	5.0	13.4	6.3	37.3	2.1	5Y7/1	灰白色	C	2	外面上に燒台痕	E-216
217	山茶梅	C期	III B12j	SY03	燃焼室	5.5	13.5	5.5	40.7	2.5	5Y7/1	灰白色	C	2		E-217	
218	山茶梅	C期	III B12j	SY03	燃焼室	5.3	13.6	5.8	39.0	2.3	5Y7/1	灰白色	C	2	体部内面上半のみ 降灰	E-218	
219	山茶梅	C期	III B12j	SY03	燃焼室	5.2	14.4	6.4	36.1	2.3	5Y7/1	灰白色	C	2	体部内面に降灰	E-219	
220	6	山茶梅	C期	III B12j	SY03	燃焼室	5.2	13.7	5.8	38.0	2.4	5Y7/1	灰白色	C	2		E-220
221	6	山茶梅	C期	III B12j	SY03	燃焼室	5.5	14.1	6.0	39.0	2.4	5Y7/1	灰白色	C	2	体部内面に降灰	E-221
222	山茶梅	C期	III B12j	SY03	燃焼室	5.5	14.1	5.6	39.0	2.5	5Y7/1	灰白色	C	2	体部内面に降灰	E-222	
223	山茶梅	A期	III B12j	SY03	燃焼室	4.7	14.0	6.2	33.6	2.3	5Y7/1	灰白色	A	2		E-223	
224	山茶梅	C期	III B12j	SY03	燃焼室	5.2	13.6	6.1	38.2	2.2	5Y7/1	灰白色	C	2	内面全面に降灰	E-224	
225	山茶梅	C期	III B12j	SY03	燃焼室	5.0	13.1	6.2	38.2	2.1	5Y7/1	灰白色	C	2		E-225	
226	山茶梅	*	III B12j	SY03	燃焼室	4.9	13.0	5.6	37.7	2.3	5Y6/1	灰色	*	*		E-226	
227	山茶梅	C期	III B12j	SK01		5.0	13.5	6.3	37.0	2.1	5Y7/1	灰白色	C	2	体部内面に降灰	E-227	
228	山茶梅	C期	III B12j	SK01		5.3	14.4	6.0	36.8	2.4	5Y7/1	灰白色	C	2		E-228	
229	6	山茶梅	C期	III B12j	SK01		5.4	13.7	5.5	39.4	2.5	5Y6/1	灰色	C	2		E-229

図版番号	種類	出土地点			法量			調整等			備考	登録番号				
		分類	グリッド	遺構	地層位置	高さ	口径	底径	径高比	マンセル顔	色調	底内面	底外面			
美濃國 写真版	器種															
230	6	山茶碗	C類	III B12i	SK01	5.2	13.3	6.3	39.1	2.1	5Y7/1	灰白色	C	2	体部内面に降灰 E-230	
231		山茶碗	C類	III B12i	SK01	5.3	14.1	5.9	37.6	2.4	10Y6/1	灰色	C	2	E-231	
232		山茶碗	C類	III B12i	SK01	5.0	14.0	6.0	35.7	2.3	10Y6/1	灰色	C	2	E-232	
233		山茶碗	C類	III B12i	SK01	5.1	13.4	6.0	38.1	2.2	10Y6/1	灰色	C	2	E-233	
234		山茶碗	C類	III B12i	SK01	5.2	14.2	5.7	36.6	2.5	10Y7/1	灰白色	C	2	体部内面に降灰 E-234	
235	6	山茶碗	C類	III B12i	SK01	5.1	13.6	5.7	37.5	2.4	10Y7/1	灰白色	C	2	体部内面上半のみ降灰 E-235	
236		山茶碗	C類	III B12i	SK01	4.8	13.4	5.9	35.8	2.3	5Y6/1	灰色	C	2	E-236	
237		山茶碗	C類	III B12i	SK01	5.2	14.1	6.0	36.9	2.4	7.5Y7/1	灰白色	C	2	体部内面上半のみ降灰 E-237	
238	6	山茶碗	C類	III B12i	SK01	4.9	14.2	5.8	34.5	2.4	10Y7/1	灰白色	C	2	E-238	
239		山茶碗	C類	III B12i	SK01	5.4	14.5	6.0	37.2	2.4	7.5Y6/1	灰色	C	2	E-239	
240		山茶碗	C類	III B12i	SK01	4.9	14.4	6.2	34.0	2.3	9Y6/1	灰色	C	2	E-240	
241	6	山茶碗	C類	III B12i	SK01	5.0	13.8	5.9	36.2	2.3	7.5Y7/1	灰白色	C	2	体部内面に降灰 E-241	
242		山茶碗	C類	III B12i	SK01	5.6	13.3	6.0	42.1	2.2	5Y7/1	灰白色	C	2	E-242	
243		山茶碗	C類	III B12i	SK01	5.5	14.3	6.0	38.5	2.4	7.5YR7/1	明褐色	C	2	E-243	
244	6	山茶碗	C類	III B12i	SK01	5.4	14.0	6.0	38.6	2.3	5Y8/1	灰白色	C	2	体部内面に降灰、外間に焼台痕 E-244	
245		山茶碗	C類	III B12i	SK01	5.3	14.7	5.9	36.1	2.5	7.5Y7/1	灰白色	C	2	体部内面上半のみ降灰 E-245	
246		山茶碗	C類	III B12i	SK01	4.6	14.4	7.3	31.9	2.0	7.5Y7/1	灰白色	C	2	体部内面に降灰 E-246	
247		山茶碗	*	III B12i	SK01	*	14.4	*	*	*	7.5Y7/1	灰白色	*	*	E-247	
248		山茶碗	*	III B12i	SK01	*	13.8	*	*	*	7.5YR7/1	明褐色	*	*	E-248	
249		山茶碗	C類	III B12i	SK01	*	*	6.0	*	*	7.5Y7/1	灰白色	C	2	E-249	
250		山茶碗	C類	III B12i	SK01	*	*	6.1	*	*	7.5Y7/1	灰白色	C	2	体部内面に降灰 E-250	
251		山茶碗	C類	III B12i	SK01	*	*	5.9	*	*	7.5Y7/1	灰白色	C	2	E-251	
252		山茶碗	C類	III B12i	SK01	*	*	6.0	*	*	2.5Y7/1	灰白色	C	2	E-252	
253		山茶碗	C類	III B12i	SK01	*	*	5.8	*	*	7.5Y7/1	灰白色	C	2	体部内面に降灰 E-253	
254		山茶碗	C類	III B12i	SK01	*	*	5.8	*	*	7.5Y7/1	灰白色	C	2	E-254	
255	5	山茶碗	B類	III B10i		北翌53層	5.2	14.2	6.2	36.6	2.3	5Y7/1	灰白色	B	1	E-255
256		山茶碗	*	III B10i		北翌53層	6.1	13.4	5.4	45.5	2.5	5Y7/1	灰白色	*	*	E-256
257		山茶碗	*	III B10i		北翌53層	*	14.0	*	*	*	10BG7/1	明褐色	*	*	E-257
258		山茶碗	A類			北翌53層	5.8	13.7	5.8	42.3	2.4	N7/1	灰白色	A	1	体部内面に降灰 E-258
259	5	山茶碗	B類			北翌53層	5.6	14.5	5.3	38.6	2.7	N7/1	灰白色	B	1	体部内面に降灰 E-259
260	5	山茶碗	A類	III B10i		北翌53層	5.8	14.2	5.8	40.8	2.4	10Y7/1	灰白色	A	1	体部内面に降灰 E-260
261		山茶碗	B類	III B10i		北翌53層	*	*	6.4	*	*	10BG7/1	明褐色	B	1	体部内面に降灰 E-261
262		小皿	*	III B10i		北翌53層	*	*	*	*	*	SGY8/1	灰白色	*	*	E-262
263		山茶碗	*	III B9g		北翌64層	5.7	12.6	5.0	45.2	2.5	SGY8/1	灰白色	*	*	E-263
264		山茶碗	B類	III B9g		北翌64層	*	*	5.4	0.0	*	10Y7/1	灰白色	B	1	内面全面に降灰 E-264
265		山茶碗	A類	III B9g		北翌64層	*	*	5.0	0.0	*	7.5Y7/1	灰白色	A	1	E-265
266		小皿	A類	III B9g		北翌64層	1.6	7.4	4.0	21.6	1.9	5Y7/1	灰白色	a	1	E-266
267	5	小皿	A類	III B9g		北翌64層	1.5	6.7	3.5	22.4	1.9	5Y7/1	灰白色	a	1	E-267
268		小皿	A類	III B9g		北翌64層	1.6	6.0	3.3	26.7	1.8	7.5Y7/1	灰白色	a	2	E-268
269		山茶碗	*	III B10b		北翌67層	*	15.4	*	*	*	7.5Y7/1	灰白色	*	*	E-269
270		山茶碗	*	III B10b		北翌67層	*	13.1	*	*	*	10Y7/1	灰白色	*	*	E-270
271		山茶碗	*	III B9g		北翌67層	*	14.2	*	*	*	10BG7/1	明褐色	*	*	E-271
272		山茶碗	*	III B10b		北翌67層	*	14.8	*	*	*	7.5Y7/1	灰白色	*	*	E-272
273		山茶碗	*	III B10b		北翌67層	*	14.8	*	*	*	2.5GY7/1	明オリーブ	*	*	E-273
274		山茶碗	A類	III B10b		北翌67層	*	*	6.3	*	*	10G7/1	明緑色	A	2	E-274
275	5	小皿	A類	III B10b		北翌67層	1.8	8.2	4.5	22.0	1.8	N7/1	灰白色	a	1	E-275
276		小皿	A類	III B10b		北翌67層	1.6	7.6	3.9	21.1	1.9	N7/1	灰白色	a	1	E-276
277		山茶碗	B類	III B9g		北翌62層	5.8	14.0	6.1	41.4	2.3	SBG2/1	明青緑色	B	1	E-277
278	4	山茶碗	A類	III B10b		北翌65層	5.7	13.4	5.8	42.5	2.3	5Y7/1	灰白色	A	1	内面全面に降灰 E-278
279		山茶碗	A類	III B10b		北翌65層	5.5	14.6	6.0	37.7	2.4	5Y7/1	灰白色	A	1	体部内面に降灰 E-279
280		山茶碗	A類	III B10b		北翌65層	5.2	14.0	6.0	37.1	2.3	5Y7/1	灰白色	A	2	外間に焼台瓶 E-280
281		山茶碗	B類	III B10b		北翌65層	5.2	14.5	5.8	35.9	2.5	5Y7/1	灰白色	B	1	E-281
282		山茶碗	B類	III B10b		北翌65層	*	*	6.0	*	*	5Y8/1	灰白色	B	1	体部内面に降灰 E-282
283		山茶碗	A類	III B10b		北翌65層	*	*	6.0	*	*	5Y8/1	灰白色	A	1	内面全面に降灰 E-283
284		小皿	A類	III B10b		北翌65層	1.8	8.2	4.5	22.0	1.8	5Y7/1	灰白色	a	1	E-284
285		小皿	A類	III B10b		北翌65層	1.7	8.4	4.8	20.2	1.8	5Y7/1	灰白色	a	1	外間に焼台瓶 E-285

図版番号	種類	出土地点	法 星						調整等			備考	登録番号			
			分類	グリッド	遺構	地點層位	高さ	口径	底径	形状	口部 底部	マンセル番	色調	底内面	底外面	
実測圖 写真 図版																
286	小皿	a期	III B10i		北壁 45層	1.7	7.8	4.2	21.8	1.9	10Y7/1	灰白色	a	1	外側に焼台痕	E-286
287	小皿	a期	III B10i		北壁 45層	1.6	8.6	5.0	18.6	1.7	5Y7/1	灰白色	a	1	外側に焼台痕	E-287
288	4	山茶碗	A期	III B10i	北壁 46層	5.6	13.0	5.7	43.1	2.3	10Y7/1	灰白色	A	1	体部内面に降灰	E-288
289	山茶碗	B期	III B10i		北壁 46層	5.9	13.6	5.6	43.4	2.4	5Y7/1	灰白色	B	1	体部内面に焼灰、 外側に焼台痕	E-289
290	山茶碗	A期	III B10i		北壁 46層	5.1	13.8	5.6	37.0	2.5	5Y7/1	灰白色	A	1		E-290
291	山茶碗	A期	III B10i		北壁 46層	5.9	13.5	5.7	43.7	2.4	5Y7/1	灰白色	A	1		E-291
292	山茶碗	A期	III B10i		北壁 46層	5.4	13.3	5.2	40.6	2.6	5Y8/1	灰白色	A	1	体部内面に降灰	E-292
293	山茶碗	A期	III B10i		北壁 46層	6.6	14.1	6.0	46.8	2.4	5Y7/1	灰白色	A	1		E-293
294	山茶碗	A期	III B10i		北壁 46層	6.4	13.8	6.3	46.4	2.2	5Y7/1	灰白色	A	1	体部内面に降灰	E-294
295	山茶碗	A期	III B10i		北壁 46層	5.2	14.0	5.6	37.3	2.5	5Y7/1	灰白色	A	1	体部内面に降灰	E-295
296	山茶碗	A期	III B10i		北壁 46層	5.9	14.0	5.9	42.1	2.4	5Y7/1	灰白色	A	1	体部内面に降灰	E-296
297	山茶碗	B期	III B10i		北壁 46層	5.4	13.8	5.6	39.1	2.5	5Y7/1	灰白色	B	2	外側に焼台痕	E-297
298	山茶碗	*	III B10i		北壁 46層	5.3	15.2	6.0	34.9	2.5	10Y7/1	灰白色	*	*	外側に焼台痕	E-298
299	山茶碗	*	III B10i		北壁 46層	*	14.6	*	*	*	5Y7/1	灰白色	*	*	体部内面に降灰	E-300
300	山茶碗	*	III B10i		北壁 46層	*	13.6	*	*	*	5Y8/1	灰白色	*	*	体部内面に降灰	E-301
302	山茶碗	*	III B10i		北壁 46層	*	14.9	*	*	*	10Y8/1	灰白色	*	*	体部内面に降灰	E-302
303	山茶碗	*	III B10i		北壁 46層	*	14.7	*	*	*	5Y7/1	灰白色	*	*		E-303
304	山茶碗	*	III B10i		北壁 46層	*	13.8	*	*	*	5Y7/1	灰白色	*	*		E-304
305	山茶碗	*	III B10i		北壁 46層	*	14.0	*	*	*	N8/	灰白色	*	*	体部内面に降灰	E-305
306	山茶碗	*	III B10i		北壁 46層	*	14.9	*	*	*	10Y7/1	灰白色	*	*	体部内面に降灰	E-306
307	山茶碗	*	III B10i		北壁 46層	*	15.5	*	*	*	10Y8/1	灰白色	*	*	体部内面に降灰	E-307
308	山茶碗	*	III B10i		北壁 46層	5.2	13.9	5.0	37.4	2.8	5Y7/1	灰白色	*	*		E-308
309	山茶碗	*	III B10i		北壁 46層	*	14.8	*	*	*	10Y7/1	灰白色	*	*		E-309
310	山茶碗	A期	III B10i		北壁 46層	*	5.8	*	*	*	10Y7/1	灰白色	A	1	体部内面に降灰	E-310
311	山茶碗	B期	III B10i		北壁 46層	*	5.8	*	*	*	5Y7/1	灰白色	B	1		E-311
312	山茶碗	*	III B10i		北壁 46層	*	14.8	*	*	*	10Y7/1	灰白色	*	*	外側に焼台痕	E-312
313	山茶碗	A期	III B10i		北壁 46層	*	5.8	*	*	*	5Y7/1	灰白色	A	1		E-313
314	山茶碗	B期	III B10i		北壁 46層	*	5.8	*	*	*	5Y7/1	灰白色	B	1		E-314
315	山茶碗	A期	III B10i		北壁 46層	*	5.6	*	*	*	5Y8/1	灰白色	A	1		E-315
316	山茶碗	*	III B10i		北壁 46層	*	14.8	*	*	*	10Y7/1	灰白色	*	*	体部内面に降灰	E-316
317	小皿	a期	III B10i		北壁 46層	2.2	7.2	3.9	30.6	1.8	5Y7/1	灰白色	a	1		E-317
318	小皿	a期	III B10i		北壁 46層	2.1	8.1	4.2	25.9	1.9	5Y7/1	灰白色	a	1		E-318
319	4	小皿	a期	III B10i	北壁 46層	1.8	8.1	4.5	22.2	1.8	5Y7/1	灰白色	a	1		E-319
320	小皿	a期	III B10i		北壁 46層	1.6	7.7	4.4	20.8	1.8	5Y7/1	灰白色	a	1	体部内面に降灰	E-320
321	山茶碗	A期	III B10i		北壁 47層	5.4	14.3	5.7	37.8	2.5	5Y7/1	灰白色	A	1		E-321
322	山茶碗	B期	III B10i		北壁 47層	5.2	14.5	6.0	35.9	2.4	5Y7/1	灰白色	B	1	体部内面に降灰	E-322
323	山茶碗	B期	III B10i		北壁 47層	5.7	13.2	5.6	43.2	2.4	5Y7/1	灰白色	B	1	外側に焼台痕	E-323
324	山茶碗	B期	III B10i		北壁 47層	5.4	14.4	5.8	37.5	2.5	5B7/1	明青灰色	B	1	体部内面に降灰、 外側に焼台痕	E-324
325	山茶碗	A期	III B10i		北壁 47層	6.4	12.7	6.0	50.4	2.1	5Y8/1	灰白色	A	1	体部内面に降灰	E-325
326	山茶碗	A期	III B10i		北壁 47層	5.4	13.8	5.9	39.1	2.3	5Y7/1	灰白色	A	1		E-326
327	4	山茶碗	C期	III B10i	北壁 47層	5.6	13.0	5.8	43.1	2.2	5Y7/1	灰白色	C	2	外側に焼台痕	E-327
328	山茶碗	D期	III B10i		北壁 47層	5.4	13.4	5.8	42.5	2.1	5Y7/1	灰白色	D	1	体部内面に降灰	E-328
329	山茶碗	*	III B10i		北壁 47層	*	14.2	*	*	*	7.5Y7/1	灰白色	*	*	体部外側に降灰	E-329
330	4	小皿	a期	III B10i	北壁 47層	1.8	7.9	4.0	22.8	2.0	10Y7/1	灰白色	a	1	体部内面に降灰	E-330
331	小皿	a期	III B10i		北壁 47層	2.0	8.0	4.5	25.0	1.8	10Y7/1	灰白色	a	1	体部内面に降灰	E-331
332	小皿	a期	III B10i		北壁 47層	1.9	7.8	4.5	24.4	1.7	10Y7/1	灰白色	a	1		E-332
333	山茶碗	*	III B10i		北壁 47層	5.2	14.0	6.4	37.1	2.2	10Y7/1	灰白色	*	*		E-333
334	山茶碗	*	III B10i		北壁 47層	5.2	14.6	6.7	35.6	2.2	10Y7/1	灰白色	*	*		E-334
335	山茶碗	*	III B10i		北壁 47層	5.1	13.9	6.0	36.7	2.3	7.5Y7/1	灰白色	*	*		E-335
336	小皿	b期	III B10i		北壁 47層	1.8	8.6	5.8	20.9	1.5	7.5Y7/1	灰白色	b	2	内面全面に降灰	E-336
337	山茶碗	A期	III B11j		東壁 12層	5.1	14.0	6.6	36.4	2.1	10Y7/1	灰白色	A	2	体部内面に降灰	E-337
338	山茶碗	A期	III B11j		東壁 12層	*	*	6.8	*	*	10Y7/1	灰白色	A	1	体部内面に降灰	E-338
339	6	山茶碗	D期	III B11j	東壁 12層	*	*	6.3	*	*	7.5Y7/1	灰白色	D	2	体部内面に降灰	E-339
340	山茶碗	A期	III B11j		東壁 12層	*	*	6.0	*	*	10Y7/1	灰白色	A	2	内面全面に降灰	E-340
341	山茶碗	A期	III B11j		東壁 12層	*	*	6.8	*	*	7.5Y7/1	灰白色	A	2	体部内面に降灰	E-341
342	山茶碗	*	III B11j		東壁 12層	*	14.0	*	*	*	10Y7/1	灰白色	*	*		E-342
343	山茶碗	*	III B10h		北壁 18層	*	16.6	*	*	*	7.5Y7/1	灰白色	*	*		E-343
344	山茶碗	C期	III B10h		北壁 18層	*	14.5	*	*	*	7.5Y7/1	灰白色	C	2	外側に焼台痕	E-344

図版番号	種類	出土地点			法量			調査等			備考	登録番号				
		器種	分類	グリッド	遺構	地點位	幅	口徑	底径	径深	マンセル番	色調	底内面	底外面		
345	山茶碗 C類	III B10h			東竈18層	5.5	13.2	5.8	41.7	2.3	7.5Y7/1	灰白色	C	2	外間に焼台痕	E-345
346	山茶碗 *	III B10h			北竈18層	4.7	14.0	6.0	33.6	2.3	10Y8/1	灰白色	*	*		E-346
347	山茶碗 *	III B10h			東竈18層	*	13.2	*	*	10Y7/1	灰白色	*	*		E-347	
348	山茶碗 *	III B10h			北竈21層	5.2	14.3	6.0	36.4	2.4	7.5Y7/1	灰白色	*	*		E-348
349	山茶碗 A類	III B10h			東竈21層	5.0	13.6	6.5	36.8	2.1	7.5Y7/1	灰白色	A	2		E-349
350	山茶碗 *	III B10i			北竈21層	*	15.9	*	*	10Y7/1	灰白色	*	*	外間に焼台痕	E-350	
351	山茶碗 *	III B10i			東竈21層	*	14.0	*	*	7.5Y7/1	灰白色	*	*		E-351	
352	山茶碗 *	III B10i			北竈21層	*	14.3	*	*	7.5Y7/1	灰白色	*	*		E-352	
353	小皿 b類	III B10h			北竈21層	1.8	8.5	5.1	21.2	1.7	7.5Y7/1	灰白色	b	2	体部内面に降灰	E-353
354	6 小皿 a類	III B10h			東竈21層	1.8	8.0	4.7	22.5	1.7	7.5Y7/1	灰白色	a	1		E-354
355	山茶碗 A類	III B10i			北竈30層	5.8	13.8	5.5	42.0	2.5	7.5Y6/1	灰色	A	1	体部内面に降灰	E-355
356	山茶碗 A類	III B10i			北竈30層	5.3	15.0	5.9	35.3	2.5	10Y7/1	灰白色	A	1	外間に焼台痕	E-356
357	山茶碗 A類	III B10i			北竈30層	5.7	13.6	5.0	41.9	2.7	10Y7/1	灰白色	A	2		E-357
358	山茶碗 A類	III B10i			北竈30層	5.0	14.7	5.6	34.0	2.6	10Y7/1	灰白色	A	1	体部内面に降灰	E-358
359	山茶碗 A類	III B10i			北竈30層	5.2	13.9	5.5	37.4	2.5	7.5Y6/1	灰色	A	1		E-359
360	山茶碗 A類	III B10i			北竈30層	*	*	5.6	*	7.5Y7/1	灰白色	A	1	体部内面に降灰	E-360	
361	袖首	III B11g	SY01		燃焼室											E-361
362	袖首	III B12i	SY03		燃焼室											E-362
363	7 袖首 *	III B12j	SY03		燃焼室	*	*	*	*	*			*	*		E-363
364	7 袖首 *	III B12j	SY03		燃焼室	*	*	*	*	*			*	*		E-364
365	袖首	III B10i			T04											E-365
366	袖首	III B11h			機械庫											E-366
367	7 塵 台 * ·	III B12i	SY02		燃焼室	*	*	*	*	2.5Y8/1	灰白色	*	*	体部内面に降灰		E-367
368	塵 台 * · 山茶碗	III B11i	SY02		焼成室	*	*	*	*	2.5Y8/1	灰白色	*	*	体部外間に降灰		E-368
369	7 蓋・陶丸 *	III B11g	SY01		燃焼室	*	*	*	*	5Y8/1	灰白色	B	*	外画面全面と体部内面に降灰		E-369
370	7 蓋 *	III B12j	SY03		燃焼室					7.5Y7/1	灰白色	*	*	内外面全面に降灰		E-370
371	7 山茶碗 * · 茶葉	III B12j	SY03		燃焼室	6.4	14.5	6.3	*	2.5Y8/1	灰白色	C	*	外画面全面に降灰		E-371
372	7 陶丸 *	III B11j			東竈12層	*	*	*	*	N8/	灰白色	*	*			E-372
373	山茶碗 *	III B10i			北竈45層	6.1	15.4	5.8	39.6	2.7	5Y7/1	灰白色	*	*		E-373
374	7 無台碗 *	III B10i			機械庫	*	*	8.0	*	5Y7/1	灰白色	*	*			E-374
375	7 伊勢型圓 *	III B11g			椚出II	*	*23.2	*	*	7.5YR8/6	浅黄褐色	*	*			E-375
376	7 蓋 *	III B11j			T03	*	*	*	*	5B5/1	青灰色	*	*			E-376

遺構一覧表

窓体 (SY)

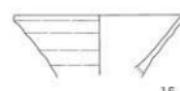
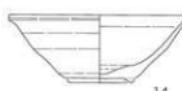
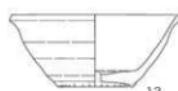
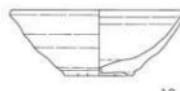
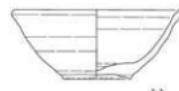
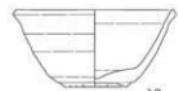
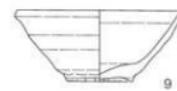
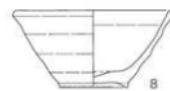
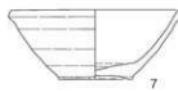
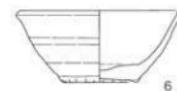
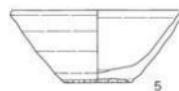
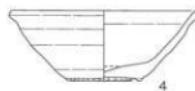
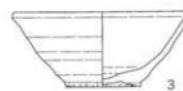
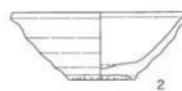
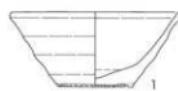
遺構番号	長 (m)	最大幅 (m)
SY01	4.05	2.16
SY02	5.30	3.12
SY03	3.20	2.48

溝 (SD)

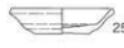
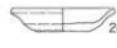
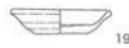
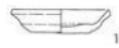
遺構番号	長 (m)	最大幅 (m)
SD01	2.60	0.18

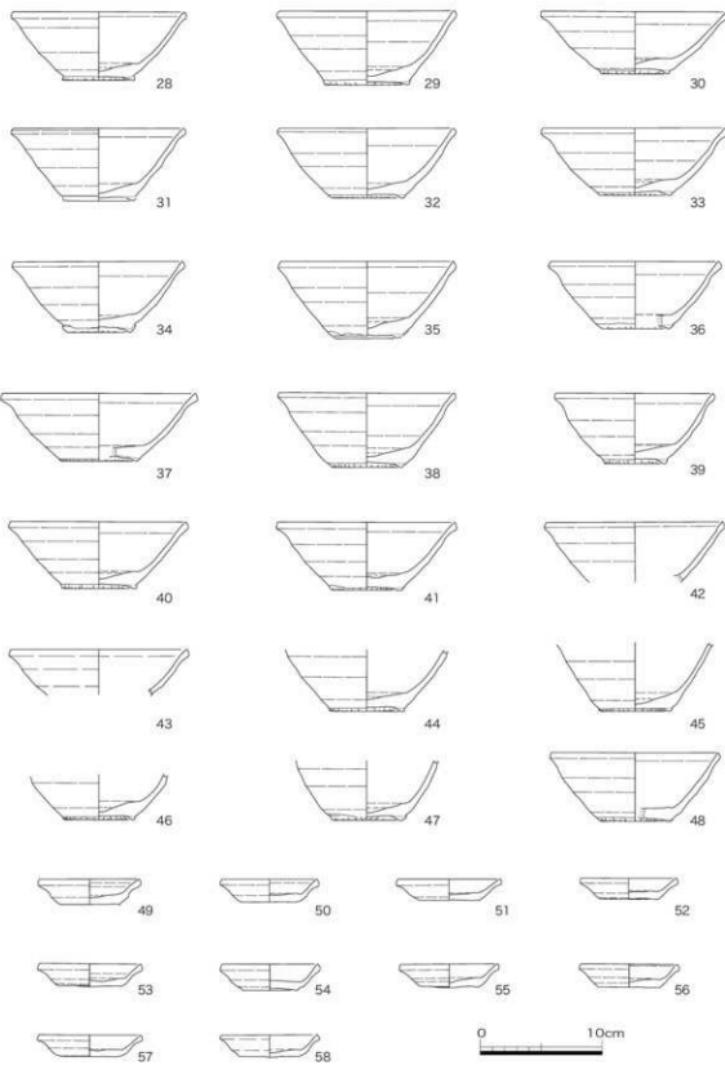
土坑 (SK)

遺構番号	直径 (m)	深さ (m)
SK01	2.21	0.2

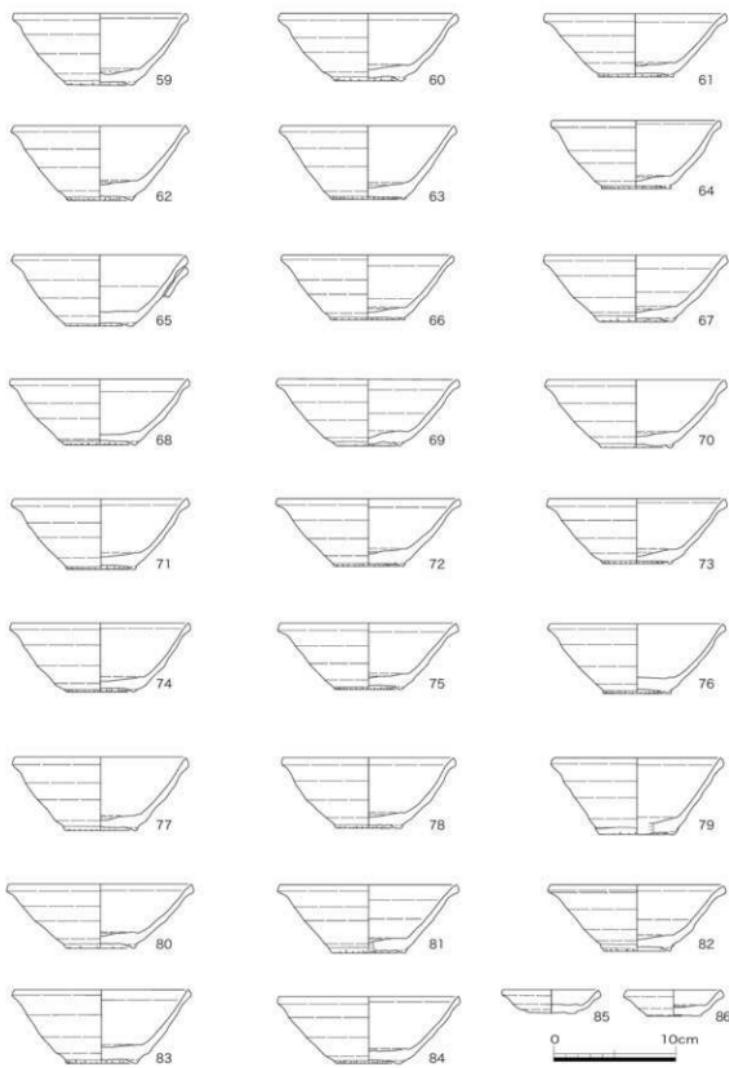


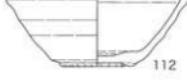
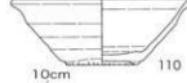
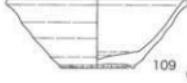
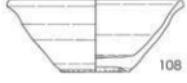
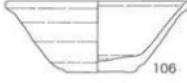
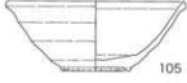
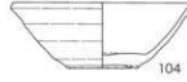
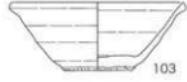
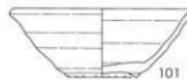
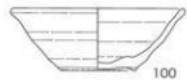
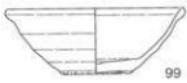
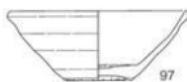
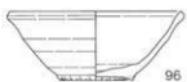
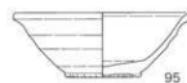
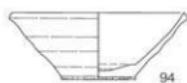
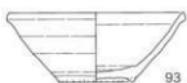
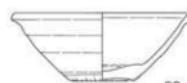
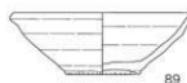
0 10cm





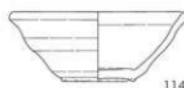
A metric ruler is shown horizontally, starting at 0 and ending at 10 cm. The ruler has major tick marks every 1 cm and minor tick marks every 1 mm.





0

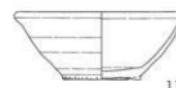
10cm



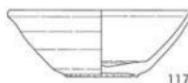
114



115



116



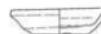
117



118



119



120



121



122



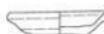
123



124



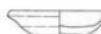
125



126



127



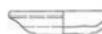
128



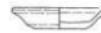
129



130



131



132



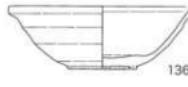
133



134



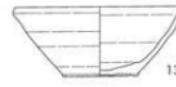
135



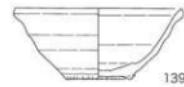
136



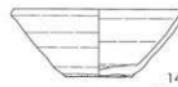
137



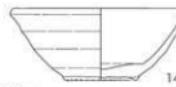
138



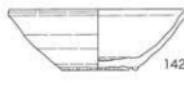
139



140



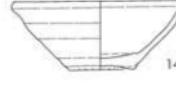
141



142



143



144

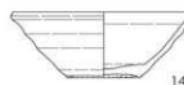
0 10cm



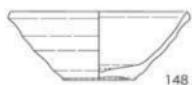
145



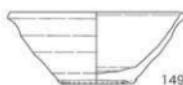
146



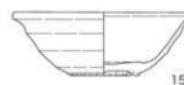
147



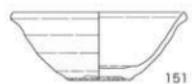
148



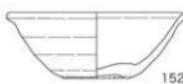
149



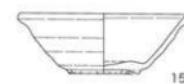
150



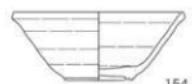
151



152



153



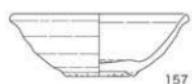
154



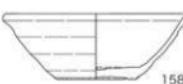
155



156



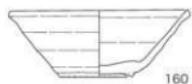
157



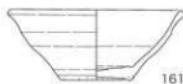
158



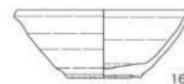
159



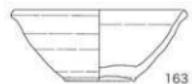
160



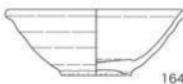
161



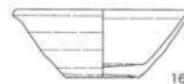
162



163



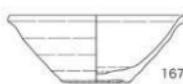
164



165



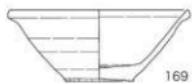
166



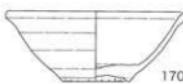
167



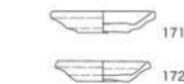
168



169



170



171



172

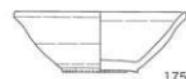
0 10cm



173



174



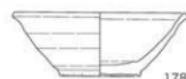
175



176



177



178



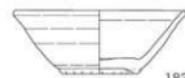
179



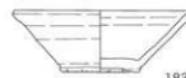
180



181



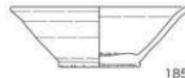
182



183



184



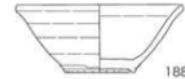
185



186



187



188



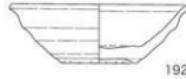
189



190



191



192



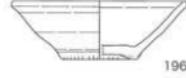
193



194



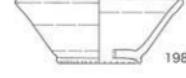
195



196



197

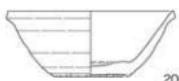


198

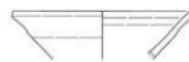




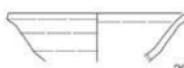
199



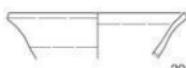
200



201



202



203



204



205



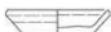
206



207



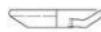
208



209



210



211



212



213



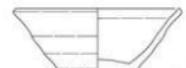
214



215



216



217



218



219



220



221



222



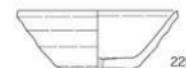
223



224



225



226



SK01

図版
9



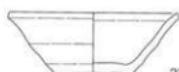
227



228



229



230



231



232



233



234



235



236



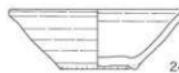
237



238



239



240



241



242



243



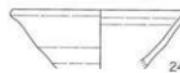
244



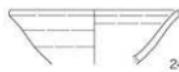
245



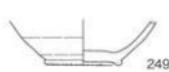
246



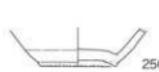
247



248



249



250



251



252



253



254



北壁・東壁採集遺物 1

図版
10

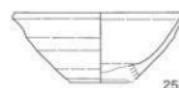
北壁53層



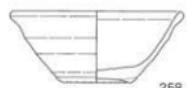
255



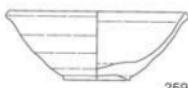
256



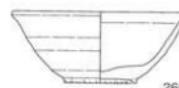
257



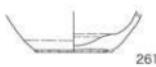
258



259



260



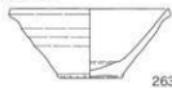
261



262



北壁64層



263



264



265



266

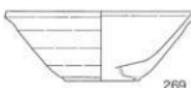


267

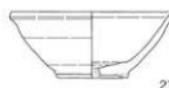


268

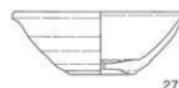
北壁67層



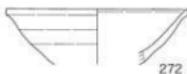
269



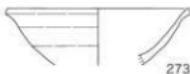
270



271



272



273



274



275



276

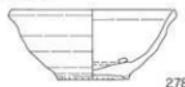


277

北壁・東壁採集遺物 2

図版
11

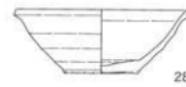
北壁45層



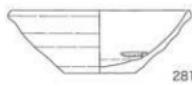
278



279



280



281



282



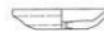
283



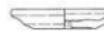
284



285



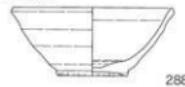
286



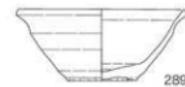
287

0 10cm

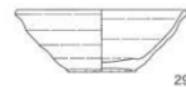
北壁46層



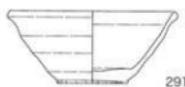
288



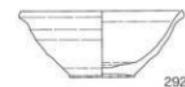
289



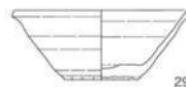
290



291



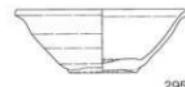
292



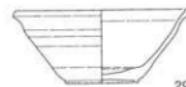
293



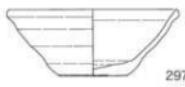
294



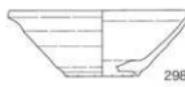
295



296



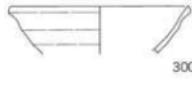
297



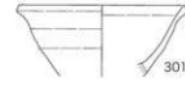
298



299



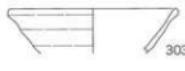
300



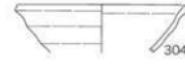
301



302



303



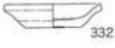
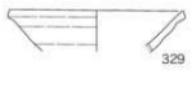
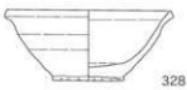
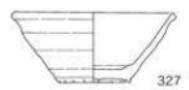
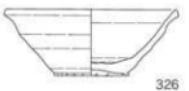
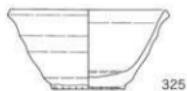
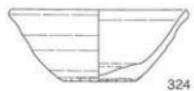
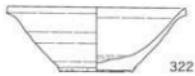
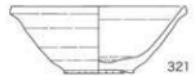
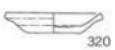
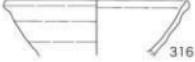
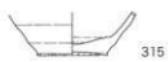
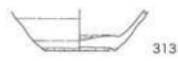
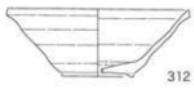
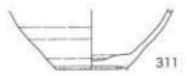
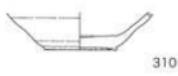
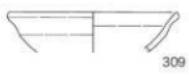
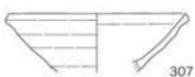
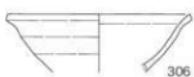
304



305

北壁・東壁採集遺物 3

図版
12



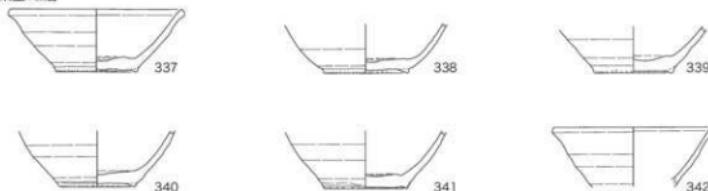
北壁・東壁採集遺物 4

図版
13

北壁8層



東壁12層

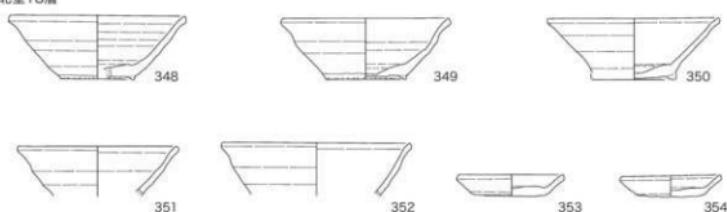


北壁14層



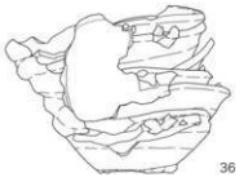
0 10cm

北壁18層

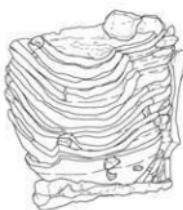


北壁29層

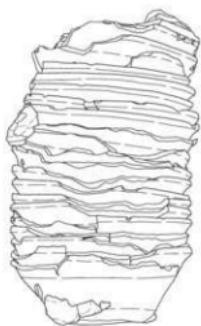




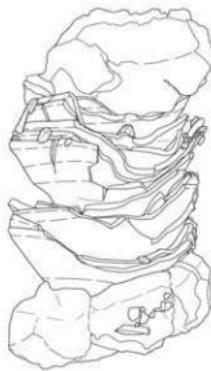
361



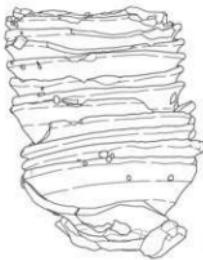
362



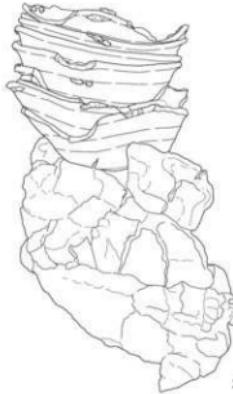
363



364



365



366

0 10cm

窯道具・その他

図版
15



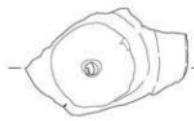
367



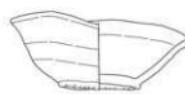
368



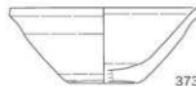
369



370



371



372

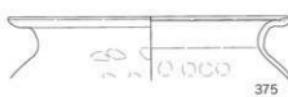


373



374

0 10cm



375



376



SY01 完掘状況（北東から）

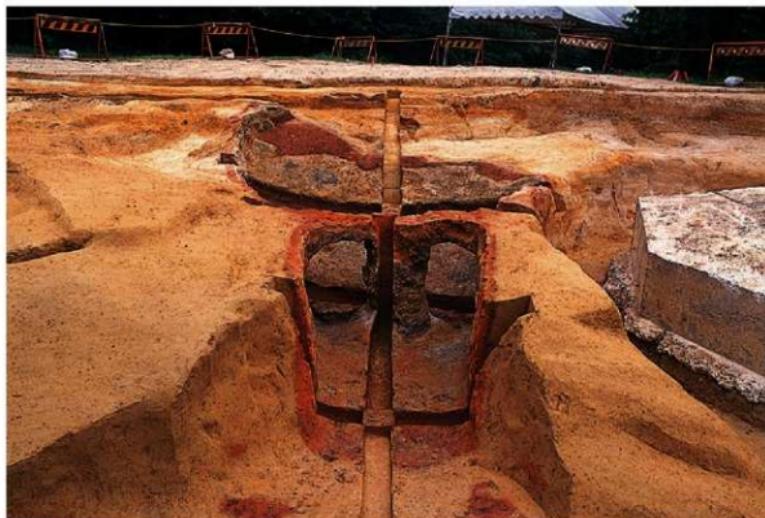


左：分焰柱検出状況

左下：分焰柱断ち割り状況

下：窯体内埋土堆積状況





SY02 断ち割り状況（北から）



左：焼台出土状況

左下：分焰柱断ち割り状況

下：分焰柱粘土貼り付け状況





SY03 完掘状況（北から）



左：窯体補修状況

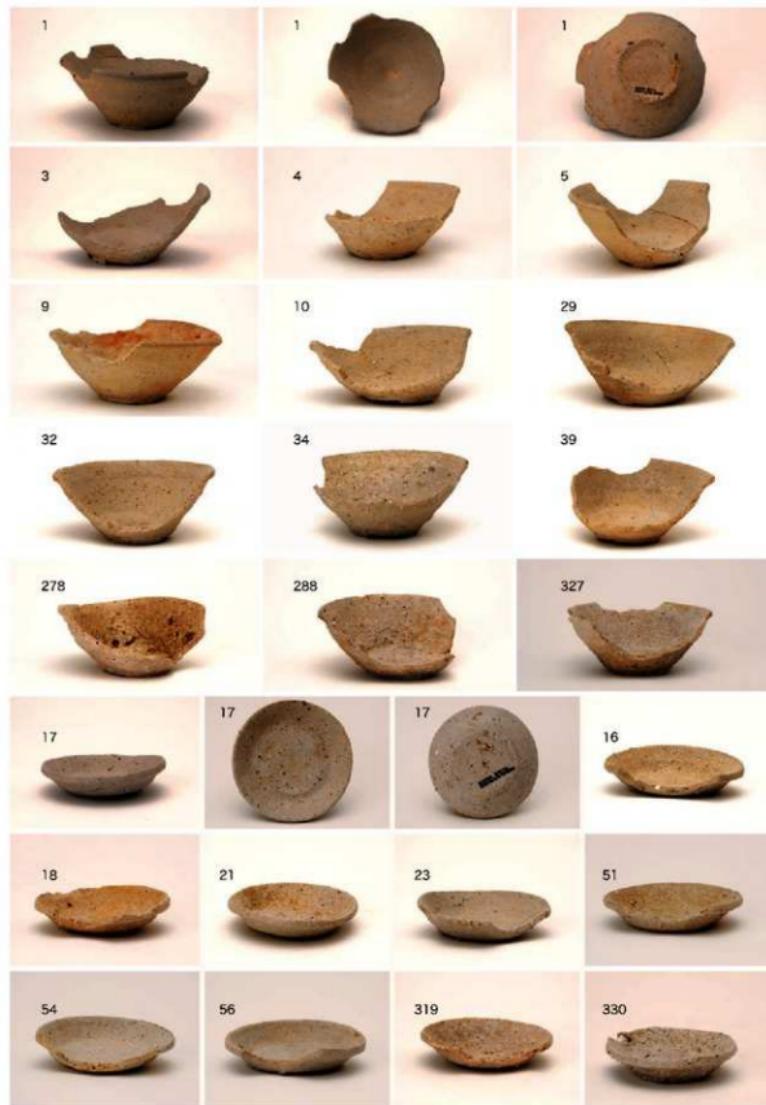
左下：床面補修状況

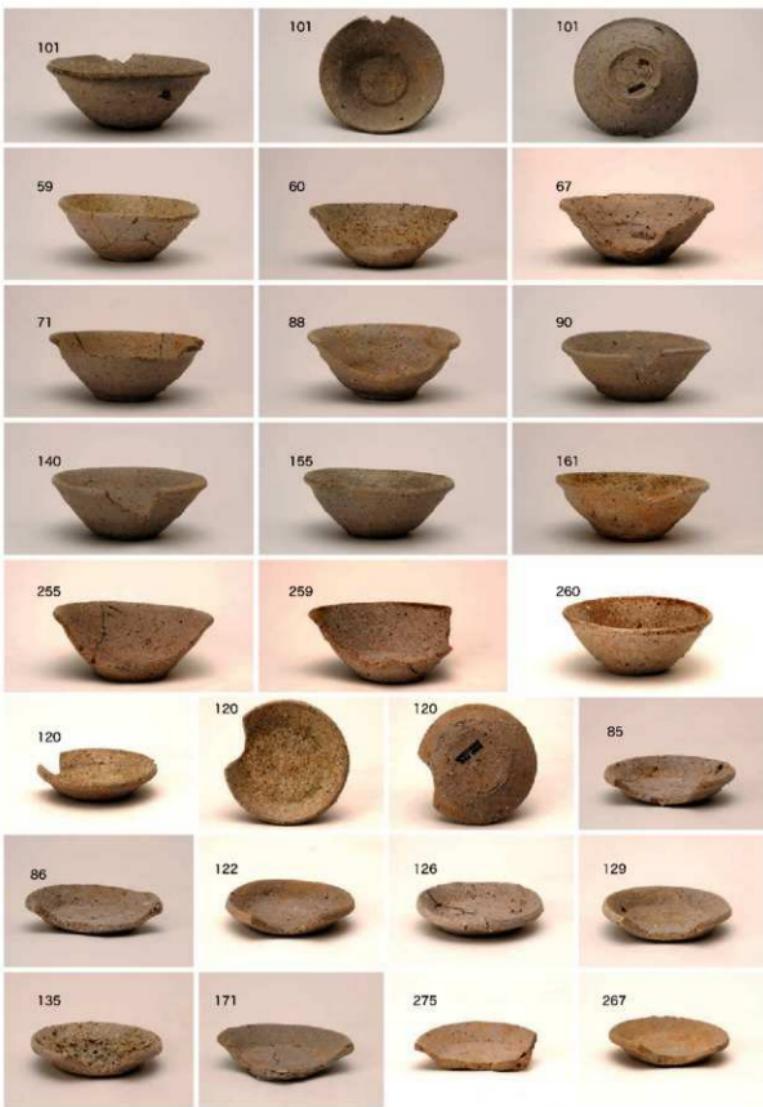
下：分焰柱補修状況



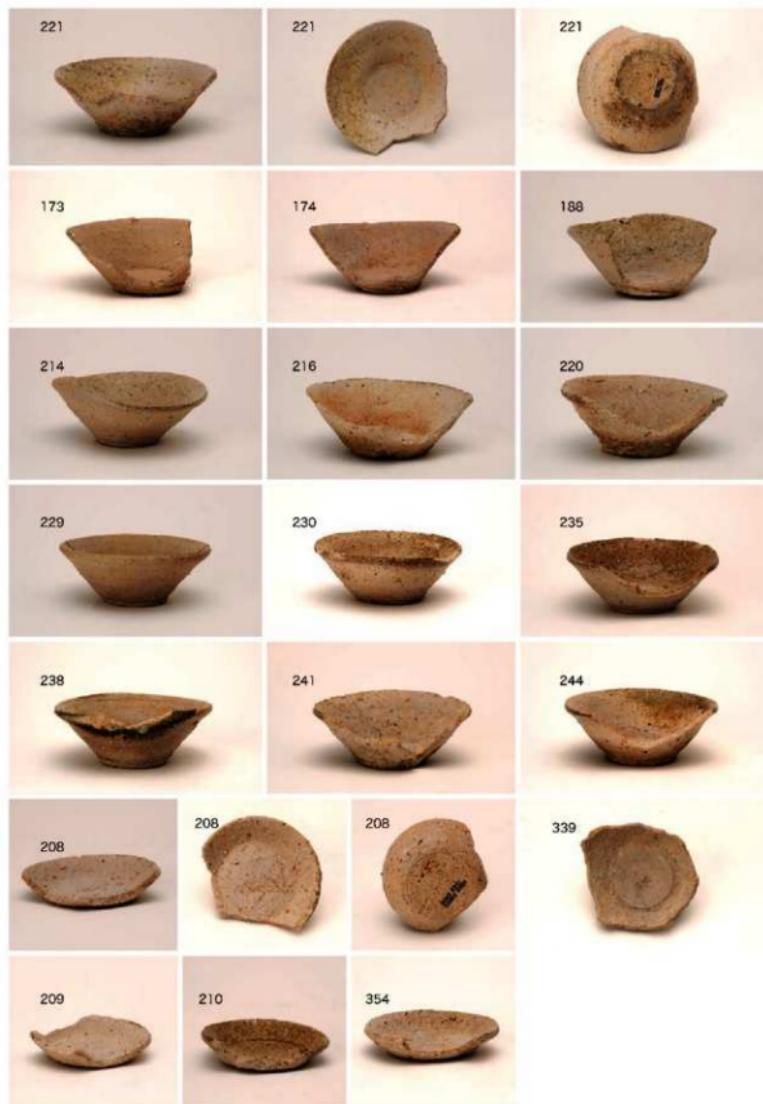
遺物 (SY01)

写真図版4





遺物 (SY03・SK01)



遺物（壁・窯道具・その他）



報告書抄録

ふりがな	あいじー2ごうかまとと
書名	I-G-2号窯跡
調書名	
卷次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第129集
編集者名	鶴飼雅弘
編集機関	愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県海部郡弥富町前ヶ須新田野方 802-24
発行年月日	西暦 2005 年 3 月 31 日

ふりがな	ふりがな	コード		北	緯	東	経	調査期間	調査面積	調査原因
所取遺跡名	所在地	市	町・村	遺跡番号						
I-G-2号窯跡	愛知県愛知郡長久手町大字岩作字三ヶ峯	23304	15033	35 度 10 分 6 秒	137 度 5 分 27 秒	2003.4.7 ~ 2004.7.7		350 m ²		青少年公園再整備に伴う発掘調査

所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
I-G-2号窯跡	古窯跡	鎌倉時代	窯体 3 基	灰釉系陶器	山茶碗・小皿・陶丸を焼成

文書番号	発掘届出(14埋セ第156号・2003.2.28)通知(14教生第72-14号・2003.3.7) 終了届・保管証・発見届(14埋セ第24号・2003.6.20) 鑑査結果通知(14教生第72-14号・2003.8.15)
------	---

要約	本窯は山茶碗・小皿・陶丸を焼成した、いわゆる山茶碗専焼窯である。中世東海地方に通有の分焰柱を有する窯窯であり、窯体を 3 基確認したが、いずれも上半は滅失した状態であり、燃焼室及び焼成室の一部を確認するに留まった。遺物の年代観から、13 世紀前葉から中葉にかけての操業が考えられる。本窯は猿投窯岩崎支群の一群に含まれており、周辺の丘陵を含めた窯業生産の実態を示す一資料として位置づけることができる。
----	---

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第129集

I - G - 2 号 煙 跡

2005年3月31日

編集発行 財団法人 愛知県教育サービスセンター
愛知県埋蔵文化財センター

印 刷 株式会社クイックス